

XDIR

武石秀男氏：作

小野勝広：著

- ◆マルチウィンドウを使ったエディタ内蔵ファイル管理ソフト
- ◆ワイルドカードで複数ドライブのファイルを同時に管理する

はじめに

「XDIR」は、H.Takeishi氏が製作したファイル操作機能および編集機能を備えたオンラインソフトです。本書ではXDIR Ver. 4.23を使用して解説を行っています。

このソフトの特徴としては次の機能が挙げられます。

- ①ファイルとディレクトリのツリー表示
- ②マルチウィンドウによる最大10個までのドライブ同時表示*1
- ③ディレクトリやファイルの削除およびディスクコピー*2
- ④ファイルの実行・テキストの内容表示・内容の比較・16進数ダンプ
- ⑤メディアの異なるディスクのファイルの検索・アスキー変換表示・格納
- ⑥マルチウィンドウを採用した簡易エディタ
- ⑦独自の書庫機能による階層ファイル群のアーカイブ+圧縮コピー
- ⑧メニューを使つてのコマンド実行
- ⑨マウスによるメニュー操作
- ⑩マクロ機能によるオリジナルの環境構築*3
- ⑪EMSメモリ対応

《注》

*1 ファイルのコピーはウィンドウ間で行えます。

*2 フォーマット機能付きでMS-DOS以外のフロッピーの複写も可能です。

*3 表示色などの設定も可能です。

1991年7月

小野勝広

目次

はじめに	22
第1章 XDIRの起動と終了	26
XDIRの起動	26
▶ フロッピーディスクからの起動	26
▶ 複数ドライブの起動	27
▶ 特定のディレクトリ・ファイルを対象にした起動	27
▶ ハードディスクからの起動	29
XDIRの終了	29
▶ [Q] or [ESC] キーによる終了	29
▶ [F1] キーによる終了	29
第2章 ウィンドウ操作	31
ウィンドウのオープン・クローズ	31
▶ ウィンドウの新規オープン	31
▶ アクティブウィンドウのクローズ	31
アクティブウィンドウの切り替え	33
複数のウィンドウ表示をひとつだけにする	34
ウィンドウの移動と拡大・縮小	34
▶ 枠移動 (アクティブウィンドウ全体の移動)	34
▶ 左上隅 (ウィンドウの左上隅を基点にした拡大・縮小)	35
▶ 右下隅 (ウィンドウの右下隅を基点にした拡大・縮小)	36
XDIRマップ	37
第3章 ウィンドウ内の操作	38
アクティブウィンドウ内のドライブ切り替え	38
起動時に設定した指定ドライブの変更	39
ウィンドウ内の表示形式の変更	39
▶ 横複数表示	39
▶ ファイルのサイズと日付表示	40
▶ ボリューム名表示	41
▶ ディレクトリの内部表示	41
▶ カレントディレクトリの変更	42
▶ ファイルの非表示	42
第4章 ファイルのアトリビュート属性	43
ファイルのアトリビュート属性表示	43
▶ ウィンドウ内のアトリビュート属性の表示	43
▶ 起動スイッチによるアトリビュート属性の表示	44
アトリビュート属性の変更	44
第5章 ファイル・ディレクトリ操作	45
画面操作	45
複数ファイルの削除・ディレクトリの削除	45

	ファイルのコピー	47
	▶カーソル位置のファイルコピー	47
	▶複数ファイルのコピー	47
	ファイル名の変更	47
	ファイルの検索	48
	▶頭文字の検索	48
	▶マークファイル検索	48
	ファイルのソート	49
	ファイルツリー構造の出力	49
	▶ファイルツリー構造のテキストファイル出力	49
	▶ファイルツリー構造のプリンタ出力	50
	サブディレクトリの作成	50
第6章	ディスクコピー	51
第7章	ファイルの圧縮・展開	52
	ファイルの圧縮	52
	ファイルの展開	53
	書庫のツリー構造表示	54
第8章	MS-DOSコマンド、プログラムの起動	55
	予約コマンドの実行	55
	指定ファイルの実行	56
	MS-DOSコマンドの実行	56
第9章	テキストファイル画面	57
	テキストファイル表示画面	57
	▶テキストファイルの内容表示	57
	▶テキストファイル画面の表示色の変更	58
	▶テキストファイル画面の書式変更	59
	▶テキストファイル画面での横枠の消去	59
	▶テキストファイル画面の表示行数の切り替え	59
	テキストファイルの内容比較	60
	表示テキストファイルの印刷	61
	指定行へのジャンプ	62
	表示テキストファイルのメモリマップ	63
第10章	テキストファイル・エディタ	64
	テキストファイルの読み込み	64
	新規テキストファイルの作成	64
	テキストファイルの保存	65
	エディタの終了	65
	エディタの各種操作	66
	▶入力モードの切り替え	66
	▶タブ表示	66
	▶カーソル位置から行末までのカット	66
	▶行範囲を指定しての削除	67
	▶行範囲を指定しての複写	67



	テキスト表示モードへの移行	68
第11章	ダンプ画面	69
	ファイルの16進ダンプ画面	69
	メモリダンプ	69
	トラックの16進ダンプ	70
付録A	XDIRのマクロ	73
付録B	ファンクションキーへの割り当て機能	74
付録C	ヘルプファイル一覧(抜粋)	77
	起動時のオプション・スイッチ	77
	▶ドライブ名・パス名	77
	コマンド一覧(アルファベット順)	78
	メニューによるコマンド選択	89
	▶ポップ・アップ・メニュー	89
	▶ダウン・メニュー	89
	ビープ音の音程音長の指定	89
	画面表示色の設定	90
	アクティブ・ウィンドウ内の各パラメーター表示色の設定	91
	ファイルコマンド	92
	グラフィック画面表示	92
	罫線幅の指定	92
	コマンドバーの設定	92
	表示ウィンドウ幅の設定	92
	ウィンドウ・ズーム・ピッチの設定	92
	表示テキスト画面のページを指定	93
	アスキーファイル	93
	ソート・検索の設定	93
	マウス設定	94
	▶追加機能	94
	▶メニューでのマウス使用	95
	▶メニュー選択以外でのマウス使用	95
	XDIRのパス順位	96
	オプション	98
付録D	添付ディスク内のXDIRファイル	100
	▶XDIR_423.EXE	100
	▶XDIR_DOS.EXE	100
	▶XDIR_MIN.EXE	100

おぼえておこう! 102

XDIR作者の言葉 103

第1章

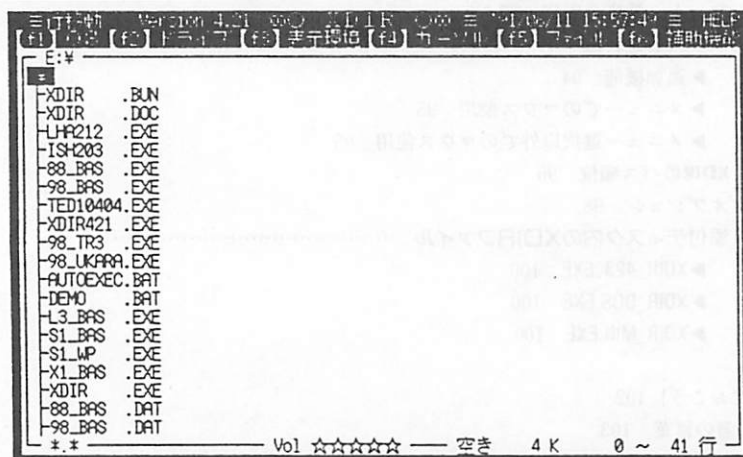
XDIRの 起動と終了

XDIRの起動

▶ フロッピーディスクからの起動

まず、コンピュータ本体、ディスプレイおよび周辺機器に電源を入れ、実行用システムディスクをAドライブにセットします。画面に「A>」が表示されている状態になったら、次のようにキーを入力してXDIRを起動します。

A> XDIR



◎図-1 XDIRの起動画面

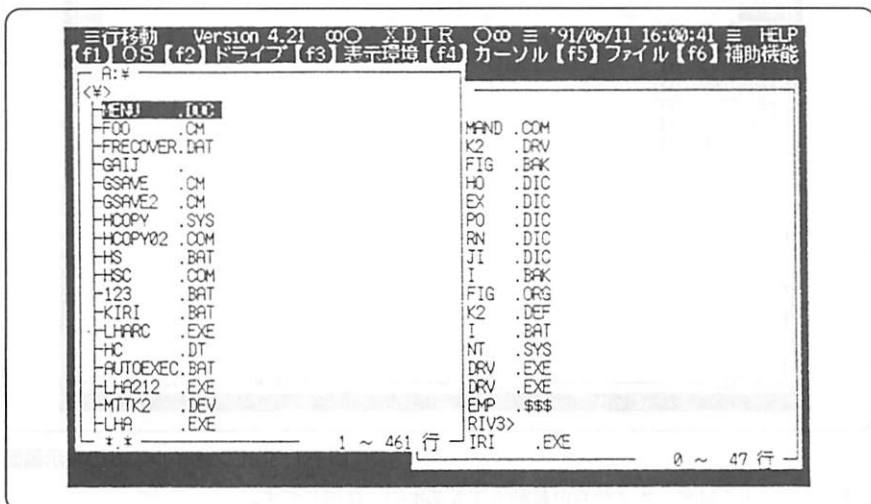
▶複数ドライブの起動

XDIRはマルチウィンドウをサポートしていますから、複数のドライブを指定するとそれに対応したウィンドウが開きます。

たとえば、AドライブとBドライブの両方を見たい場合は、次のように入力します。

```
A>XDIR A: B: 
```

すると、図のように2つのウィンドウが表示されます。



◎図-2 複数ウィンドウの表示画面

▶特定のディレクトリ・ファイルを対象にした起動

特定のディレクトリ、たとえばAドライブの「¥USR」というサブディレクトリを対象にXDIRを起動するには、次のように入力します。

```
A>XDIR A: ¥USR 
```

また、サブディレクトリ「¥USR」の中にある「.DOC」という拡張子を持つファイルだけを対象する場合は、起動の段階でパス名に続けてファイル名を記述します。

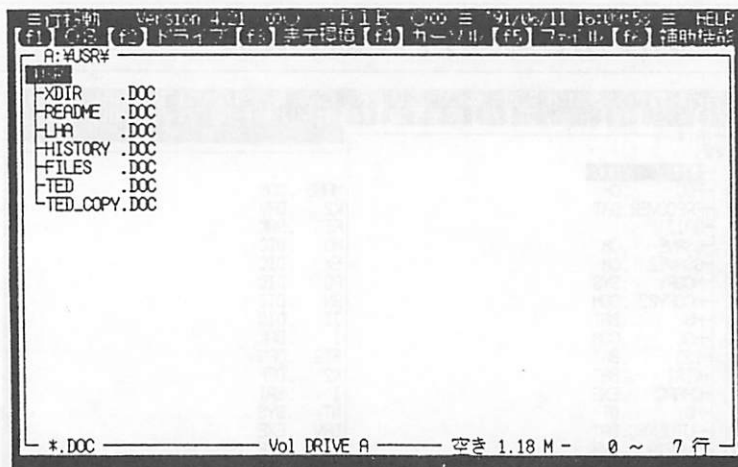
```
A>XDIR A: ¥USR¥*.DOC 
```

【注】 このほかにも、起動スイッチを使ってファイル名を指定する方法も

あります。

```
A>XDIR A:¥USR /? *.DOC
```

反対に、拡張子に関係なくすべてのファイルを表示するモードに戻すときにはテンキーの[*]を押します。



◎図-3 指定ファイルのみの表示画面

- 《注》 RAMディスクからの起動方法も基本的には同じです。
- 《注》 「AUTOEXEC.BAT」を作成すれば、自動的にXDIRを起動できます。エディタかワープロ（テキスト形式で保存）を使って次のように保存してください。ファイル名は「AUTOEXEC.BAT」です。

```
ECHO OFF
DATE
TIME
XDIR
```

次回からは、電源を入れて実行用システムディスクをセットし、日付、時刻の確認をすればXDIRが起動します。なお、日付や時刻の確認をしないならば「DATE」と「TIME」の2行は削除してもかまいません。

▶ ハードディスクからの起動

システムに電源を入れ、画面に「A>」が表示されている状態を確認して、次のようにキー操作を行い、XDIR関連ファイルの入っているサブディレクトリに移ります。

```
A> CD ¥TOOL
```

そして次のようにキー操作をして起動します。

```
A : ¥TOOL> XDIR
```

XDIRの終了

▶ [Q] or [ESC] キーによる終了

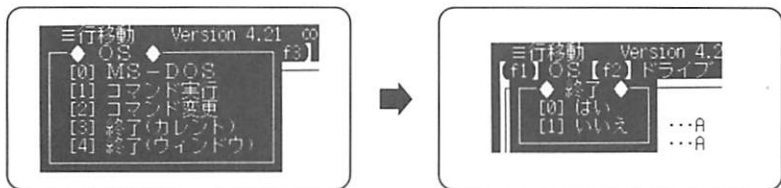
[Q] または [ESC] キーを押すと、次のようなメッセージが表示されます。

```
XDIRを終了しますか 【Y/N】
```

ここで[Y]キーを押してXDIRを終了します。

▶ [f1] キーによる終了

[f1] キーを押すとOSメニューが表示されますので、その中から「[3] 終了 (カレント)」または「[4] 終了 (ウィンドウ)」にカーソルを合わせて[J]キー（または数字の「[3]」か「[4]」）を押します。すると、終了確認のメニューが表示されますので、「[0] はい」にカーソルを合わせて[J]キー（または数字の「[0]」）を押してXDIRを終了します。



◎図-4 OSメニューと終了確認メニュー

《注》 「[3] 終了 (カレント)」を選択すると、カレントディレクトリ（通常はXDIRを起動したディレクトリ）でMS-DOSのコマンドラインに戻ります。これに対して、「[4] 終了 (ウィンドウ)」を選択すると、アクティブウィンドウ（カーソルのあるウィンドウ）に表示されて

いるディレクトリでMS-DOSのコマンドラインに戻ります。



X
D
I
R

第2章

ウィンドウ操作

ウィンドウのオープン・クローズ

▶ ウィンドウの新規オープン

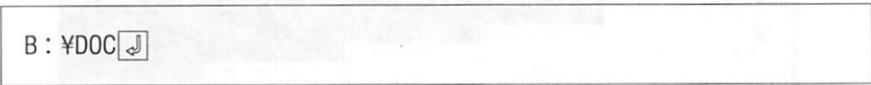
ウィンドウを新しく開く場合にはテンキーの $\boxed{+}$ を押します。すると画面がメイン・メニューに変わり、ドライブ名パス名を求めてきます。



ドライブ名パス名 > |

◎図-5 ドライブ名パス名入力

ここでBドライブの「¥DOC」という新しいサブディレクトリのウィンドウを開く場合には、次のように入力します。



B: ¥DOC |

カーソルは新しく開いたウィンドウへ移動します。なお、カーソルがあるウィンドウを「アクティブウィンドウ」と呼びます。

《注》 オープンできるウィンドウの数は最大10個ですが、メモリ量によって、それより少なくなることもあります。

《注》 逆に $\boxed{\text{SHIFT}} + \boxed{+}$ というキー操作でウィンドウを開くと、ウィンドウの再配置・再構成が行われません。

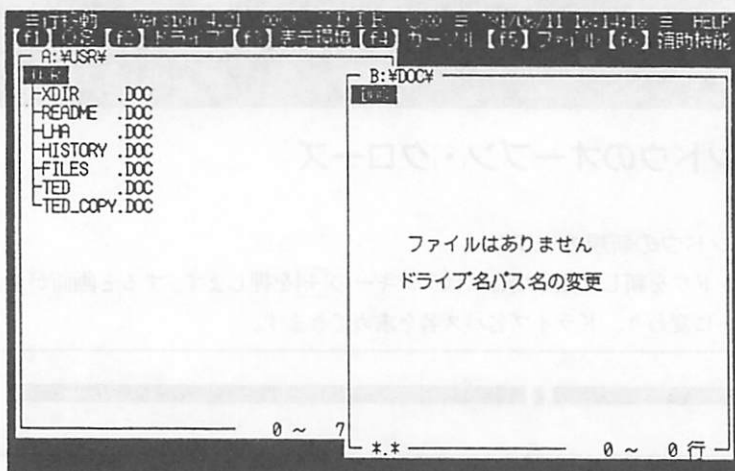
▶ アクティブウィンドウのクローズ

アクティブウィンドウを閉じるときには、テンキーの $\boxed{-}$ を押します。すると、

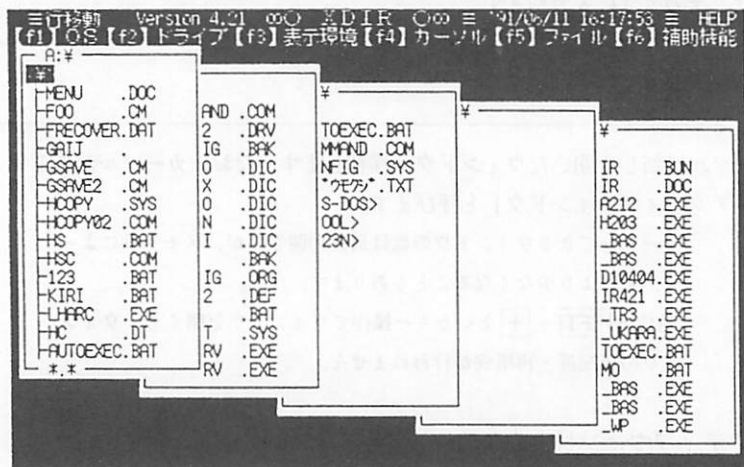
ウィンドウをクローズしますか 【Y/N】

という確認メッセージが表示されますので、ここで[Y]キーを押すとアクティブウィンドウが閉じ、残りのウィンドウは再配置されます。

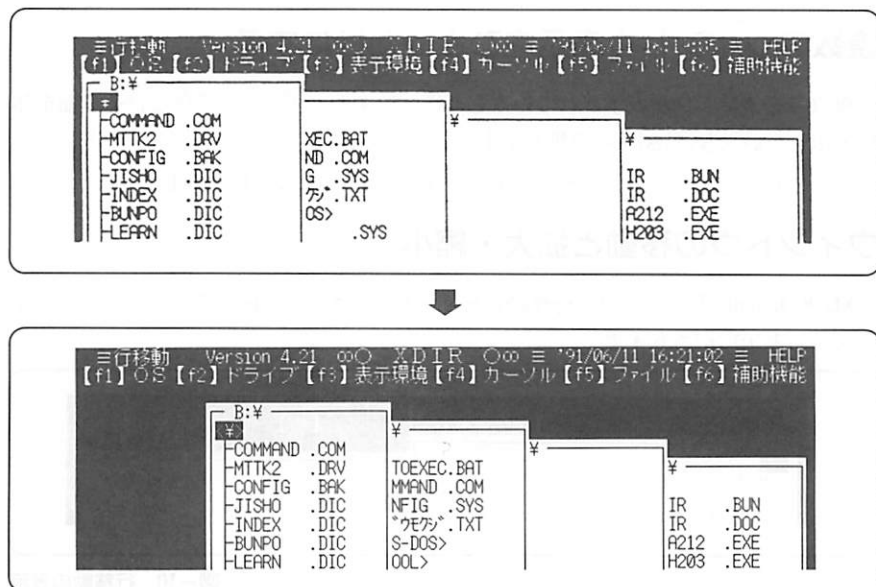
《注》 [SHIFT] + [] のキー操作でウィンドウを閉じると、ウィンドウの再配置・再構成が行われず画面は図-8 のようになります。



◎図-6 新規ウィンドウのオープン



◎図-7 ウィンドウのクローズ

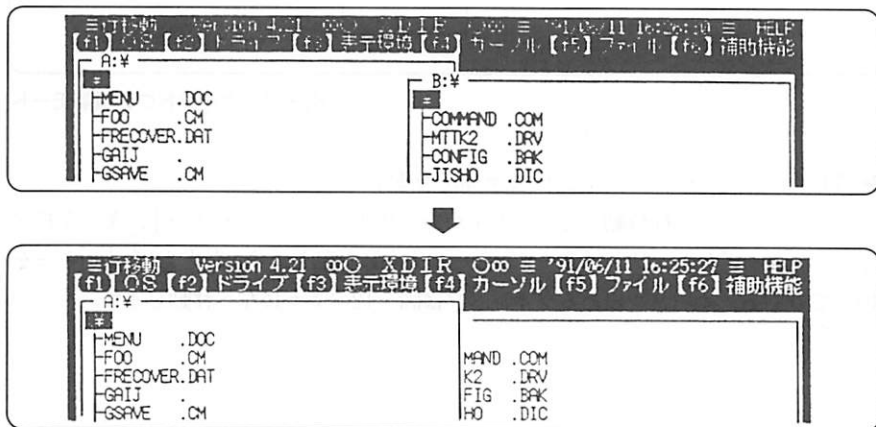


◎図-8 SHIFT + [] によるウィンドウのクローズ

アクティブウィンドウの切り替え

アクティブウィンドウ(現在カーソルのあるウィンドウ)の切り替えは、**[<]**と**[>]**キーによって行います。たとえば、図-9のように右側アクティブウィンドウである場合には、**[<]**キーを押すと左側がアクティブウィンドウに切り替えられます。

また、元の右側のウィンドウをアクティブウィンドウに戻すには**[>]**キーを押します。



◎図-9 ウィンドウの切り替え

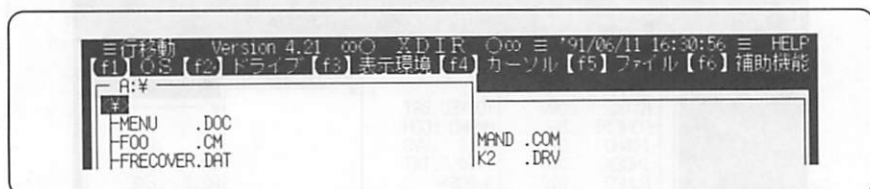
複数のウィンドウ表示をひとつだけにする

複数のウィンドウが表示されているときに、アクティブウィンドウだけを画面全体に表示したいときは[B]キーを押します。

これを元の複数ウィンドウ表示に戻すときは、テンキーの[+]を押します。

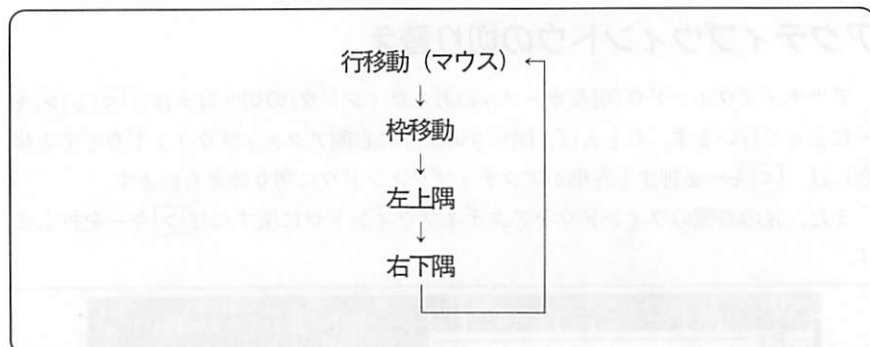
ウィンドウの移動と拡大・縮小

XDIRの画面の左上端には「行移動」という表示（マウスが使える環境にあると「マウス」の表示）があります。



◎図-10 行移動の表示

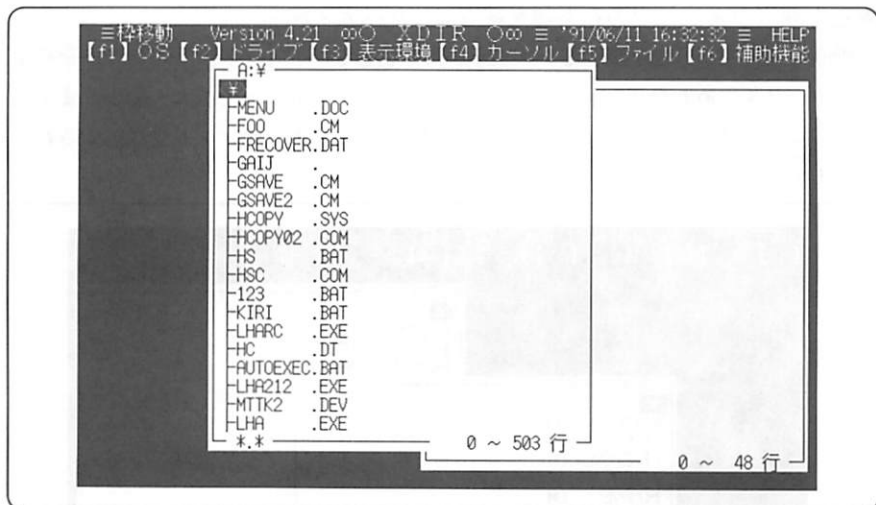
この「行移動」の表示は、[TAB]キーを押すことによって図のように変わります。



◎図-11 ウィンドウの機能モード

▶ 枠移動（アクティブウィンドウ全体の移動）

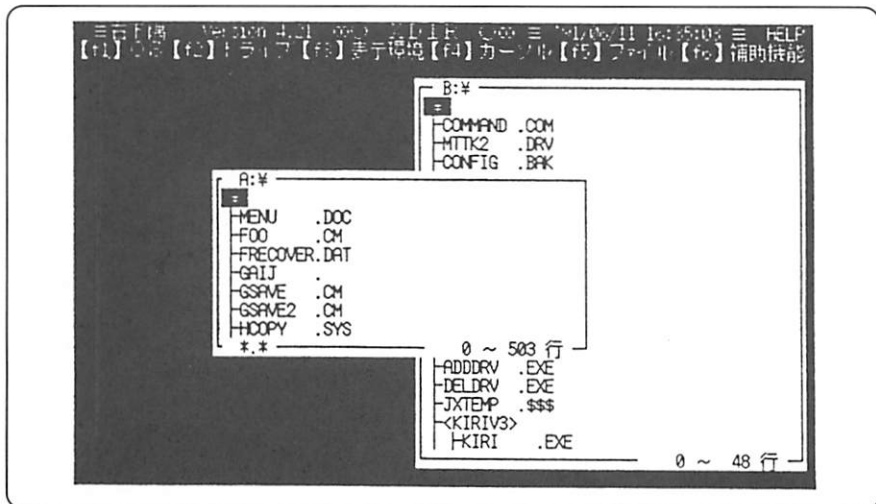
画面の左上端に「枠移動」という表示がある状態で[→]・[←]・[↑]・[↓]キーを押すと、アクティブウィンドウがカーソルキーの方向に移動します。たとえば、[←]キーを押していくと、カーソルのあるウィンドウは図-12のように左へ移動します。



◎図-12 ウィンドウの移動

▶左上隅（ウィンドウの左上隅を基点にした拡大・縮小）

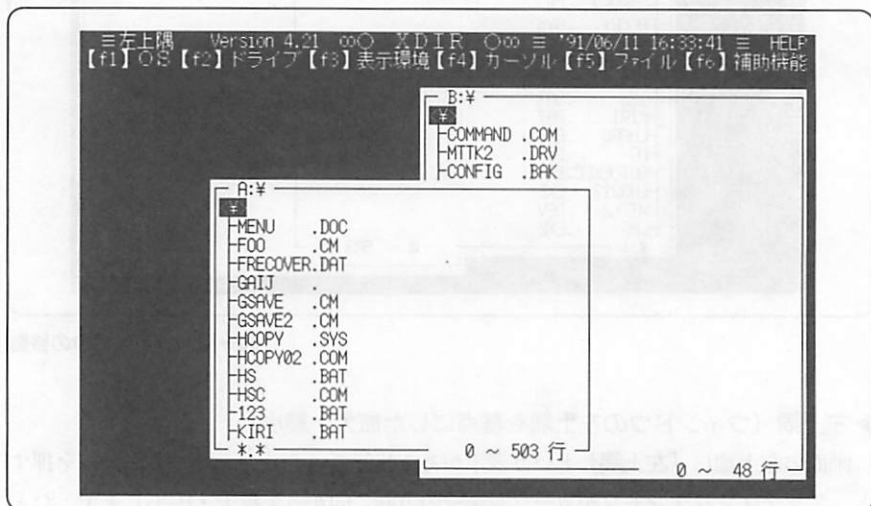
画面の左上端に「左上隅」という表示がある状態で $\rightarrow$ ・ $\leftarrow$ ・ $\uparrow$ ・ $\downarrow$ キーを押すと、アクティブウィンドウがカーソルキーの方向に向かって拡大・縮小します。たとえば、 $\downarrow$ キーを押していくと、先ほどのカーソルのあるウィンドウは縮小されていきます。



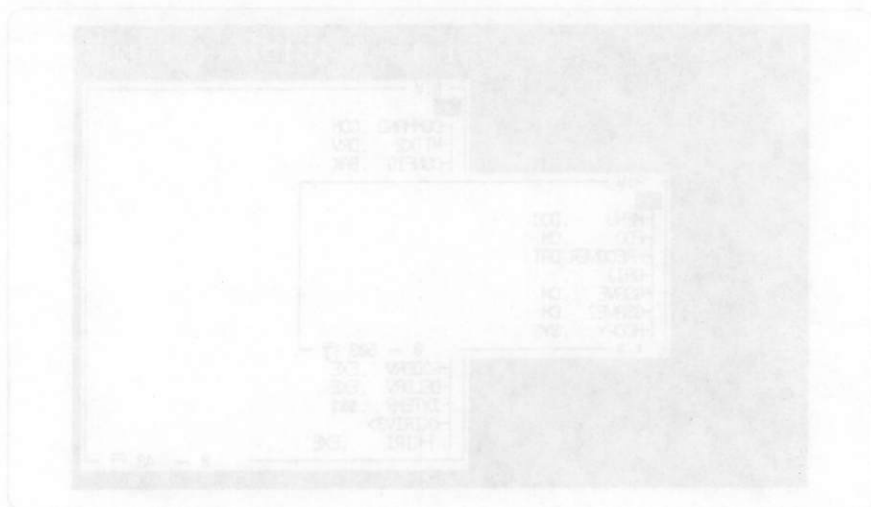
◎図-13 ウィンドウの左上隅を基点にした縮小

▶右下隅（ウィンドウの右下隅を基点にした拡大・縮小）

画面の左上端に「右下隅」という表示がある状態で $\rightarrow$ ・ $\leftarrow$ ・ $\uparrow$ ・ $\downarrow$ キーを押すと、カーソルのあるウィンドウがカーソルキーの方向に向かって拡大・縮小します。たとえば、 $\downarrow$ キーを押していくと、先ほどのカーソルのあるウィンドウは拡大されていきます。



◎図-14 ウィンドウの右下隅を基点にした拡大

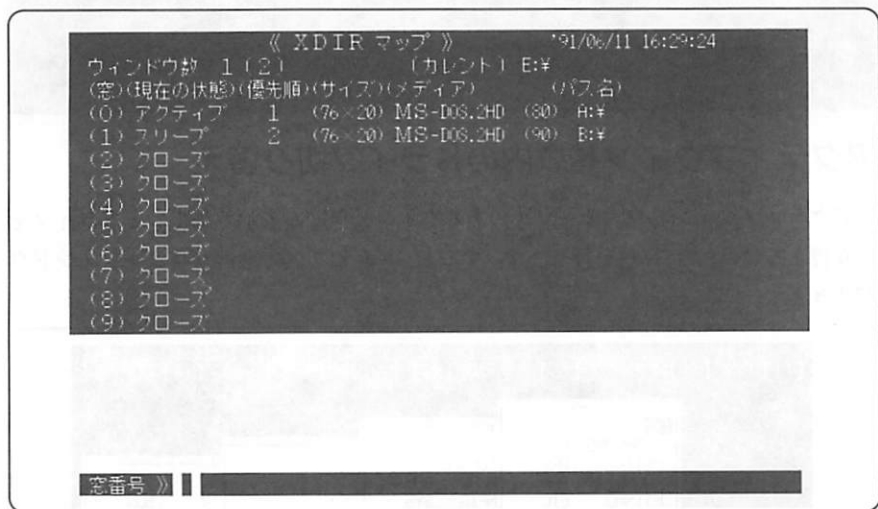


小窓式J2コマンドプロセッサの操作について 図-14

XDIRマップ

現在、画面上に開いている全ウィンドウの内容を知りたい場合には、XDIRマップという機能があります。これは現在開いているウィンドウとその優先順位、サイズ、メディア、パス名などを一覧表表示したものです。

XDIRマップを表示させるには、**[I]**キーを押します。すると、図-15のような一覧表が表示されます。



◎図-15 XDIRマップ

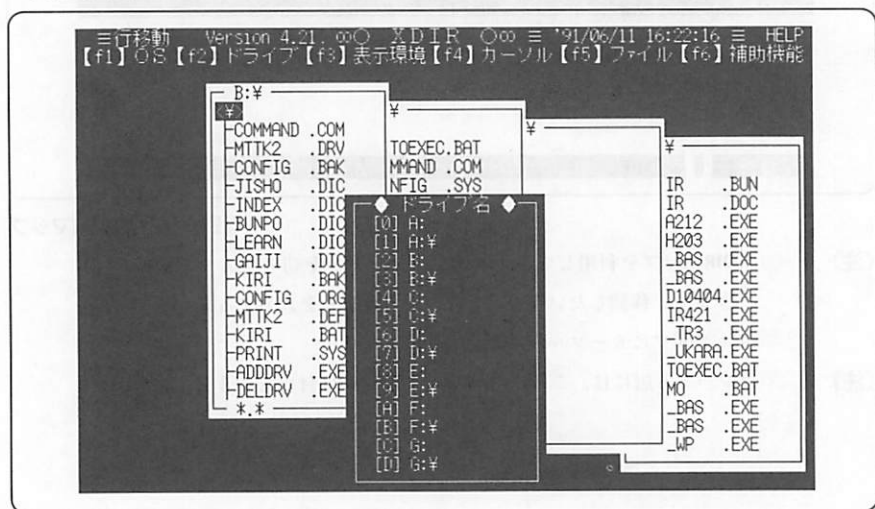
- 《注》 XDIRマップを利用してアクティブウィンドウを切り替えることもできます。移動したいウィンドウ（窓）の番号を入力すると、そのウィンドウにカーソルが移ります。
- 《注》 コンパクト版には、この「XDIRマップ」機能は付いていません。

第3章

ウィンドウ内の操作

アクティブウィンドウ内のドライブ切り替え

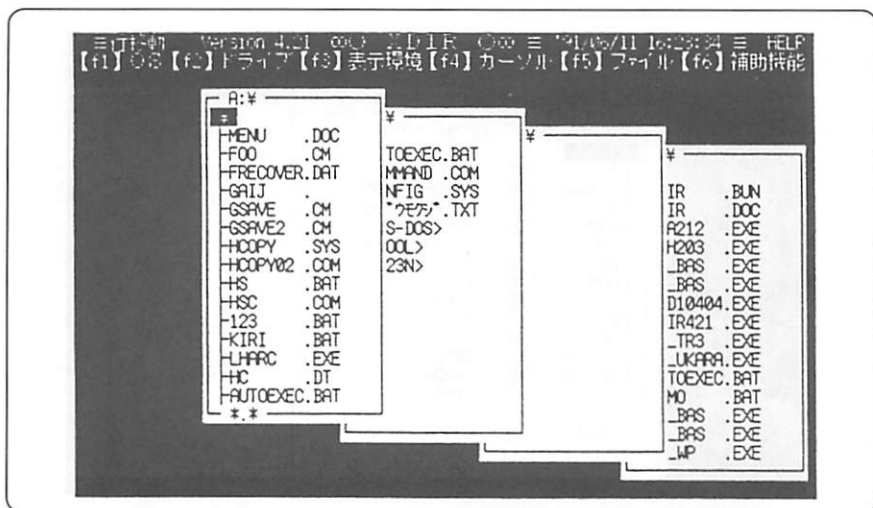
アクティブウィンドウ（カーソルのあるウィンドウ）に表示されているドライブを切り替えるには、**[T]**キーを押します。すると、ドライブ名の選択メニューウィンドウが開きます。



◎図-16 ドライブ名の選択メニューウィンドウ

ここで切り替えるドライブをカーソルキーで選択して**[↓]**キーを押す（または、数字キーで選択する）と、図のようにウィンドウ内に表示されているドライブが変わります。

たとえば、「[0] A:」を選択するとAドライブのカルレントディレクトリに替わります。また、「[1] A: ¥」を選択するとAドライブのルートディレクトリに切り替わります。



◎図-17 ウィンドウのドライブ変更

《注》 アクティブウィンドウのディレクトリの変更は、**[SHIFT] + [T]** というキー操作によっても可能です。本操作では、ディレクトリ名をキーボードから入力することができます。

起動時に設定した指定ドライブの変更

起動時に設定した指定ドライブを変更するときは、次のキー操作を行います。

[CTRL] + ドライブ名

たとえば、指定ドライブをAドライブに変更する場合には、**[CTRL] + [A]** キーを押せばいいのです。

ウィンドウ内の表示形式の変更

▶横複数表示

XDIRでは、ファイルの数が多くてウィンドウ内に表示しきれない場合、ファイルを横に複数行（行数はウィンドウのサイズによる）並べて表示することができます。

[W] キーを押すと、1列に表示されていたウィンドウ内のファイルが横複数表示に変更されます。

この横複数表示を元の1列表示に戻すには、ふたたび**[W]** キーを押します。

三行移動 Version 4.21 〇〇 X D I R 〇〇 三 '91/06/11 16:42:06 三 HELP
【f1】OS 【f2】ドライブ 【f3】表示環境 【f4】カーソル 【f5】ファイル 【f6】補助機能

```

C:\MS-DOS\
├─ CONFIG.SYS      63*7E7*.TXT
├─ MS-DOS
│  ├── IO.SYS      MSDOS.SYS
│  ├── COMMAND.COM  ADDRVR.EXE
│  ├── ASSIGN.EXE   ATTRIB.EXE
│  ├── APPEND.COM   BACKUP.EXE
│  ├── CHKDSK.EXE   CUSTOM.EXE
│  ├── DELDRV.EXE   DISKCOPY.EXE
│  ├── DUMP.EXE     EDLIN.EXE
│  ├── FC.EXE       FORMAT.EXE
│  ├── KEY.EXE      MSASSIGN.COM
│  ├── RENDIR.COM   REPLACE.EXE
│  ├── RESTORE.EXE  SPEED.EXE
│  ├── SWITCH.EXE   SYMDEB.EXE
│  ├── SYS.EXE      TREE.EXE
│  ├── USKCGM.EXE   XCOPY.EXE
│  └─ EMSDRIVE.SYS
└─ <TOOL>
   *.*

```

3 ~ 36 行

◎図-18 横複数ファイル表示

▶ ファイルのサイズと日付表示

アクティブウィンドウ内のファイルの、ファイルサイズとファイル更新日時を表示するには、**[D]**キーを押します。すると、各ファイルの右側にバイト数とファイル更新日時が表示されます。

この表示を解除するには、ふたたび **[D]** キーを押します。

```

Version 4.01  (C) 1990  S.I.T.E.  C:\MS-DOS\IO\IO.SYS  11/14/90  17:57  HELP
(F1) 帮助 (F2) 上一步 (F3) 下一步 (F4) 取消 (F5) 开始 (F6) 请购功能

A: \#
主
MENU .DOC      832    91-04-12
FOO .CH        15744   91-03-11
FRECOVER.DAT   47104   91-03-27
GAIJ .         9392    91-05-29
GSAVE .CH      665     91-03-11
GSAVE2 .CH     921     91-03-11
HOOPI .SYS     5604    91-03-11
HOOPI02.COM    1508    91-03-11
HS .BAT        10      91-03-11
HSC .COM       10723   91-03-11
123 .BAT       127     91-04-15
KIRI .BAT      72      91-04-11
LHARC .EXE     31464   91-03-11
HC .DT         22      91-06-11
AUTOEXEC.BAT   130     91-04-15
LHP212 .EXE    44277   91-03-24
MTTK2 .DEV     76      91-03-11
LHA .EXE       34121   91-03-21
*. *           0 ~ 503 行
MAND .COM
K2 .DRV
FIG .BAK
HD .DIC
EX .DIC
PO .DIC
RN .DIC
JI .DIC
I .BAK
FIG .ORG
K2 .DEF
I .BAT
NT .SYS
DRV .EXE
DRV .EXE
BNP .$$$
RV13>
IRI .EXE
0 ~ 48 行

```

◎図-19 ファイルサイズと日付表示

《注》 ディレクトリの作成日時を表示させるには **SHIFT** + **D** のキー操

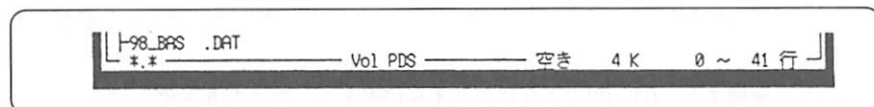
作を行ってください。



◎図-20 ディレクトリの日時の表示

▶ ボリューム名表示

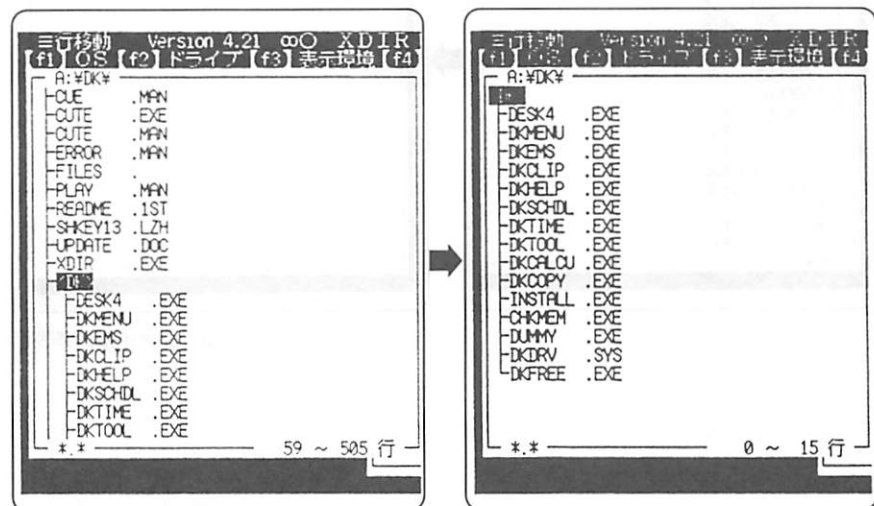
ディスクのボリューム名を表示させるには、**[V]**キーを押します。すると、アクティブウィンドウの下の方にはボリューム名が表示されます。ただし、ウィンドウの横幅が狭すぎるときは表示されません。



◎図-21 ディスクのボリューム名表示

▶ ディレクトリの内部表示

アクティブウィンドウ内をサブディレクトリへ切り替えたい場合は、カーソルをサブディレクトリ上におき**[J]**キーを押します。すると、図-22のようにサブディレクトリ内のファイルがウィンドウに表示されます。



◎図-22 ディレクトリの内部表示

《注》 親ディレクトリの位置にカーソルを戻すには、**[U]** キーを押します。

ただし、**[J]** キーを押す前のディレクトリには戻りません。

▶ カレントディレクトリの変更

ドライブごとのカレントディレクトリを現在カーソルのあるディレクトリに変更する場合には、次のキー操作を行います。

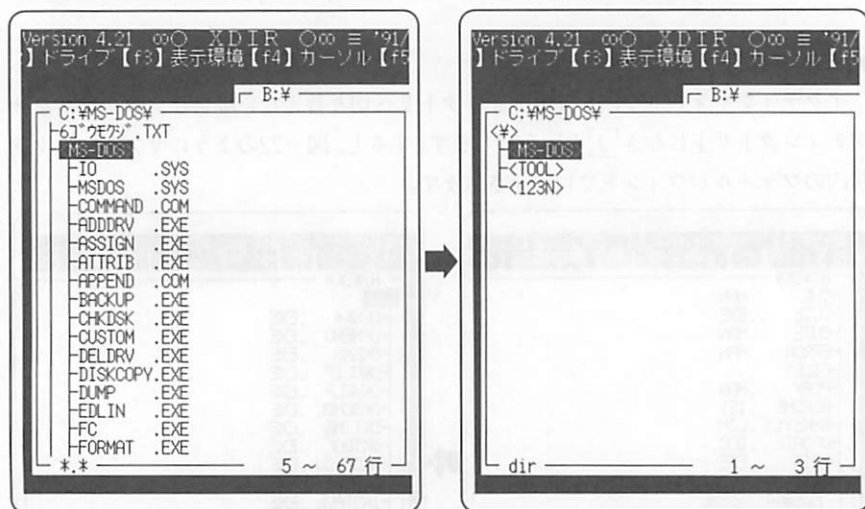
[SHIFT] + [J]

▶ ファイルの非表示

ディレクトリの構成を確認したくてもファイルの数が多くて一覧できないような場合、**XDIR**にはファイルを見えなくするモードがあります。この機能を使用するとディレクトリ名だけが表示されるため、簡単にディレクトリの構造を見渡すことができます。

[F] キーを押すと、図-23のようにファイルが表示されなくなります。

ふたたびファイルを表示したい場合には、もう一度**[F]** キーを押します。



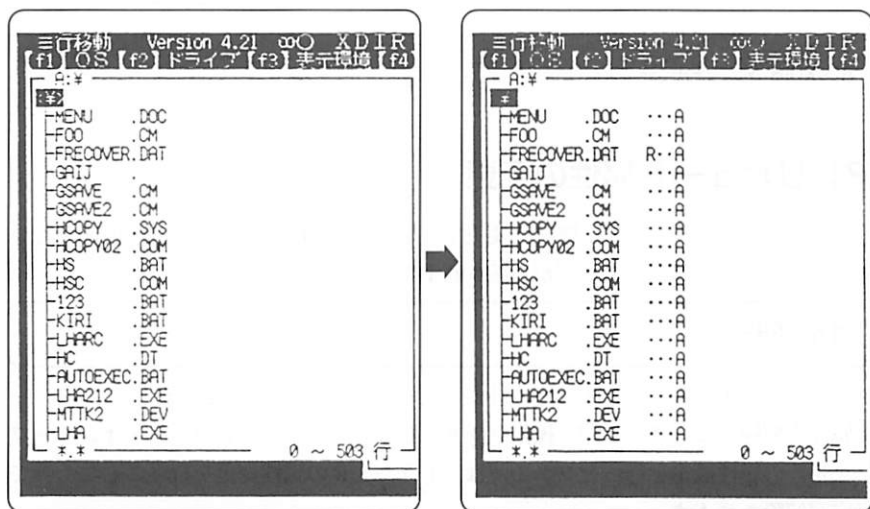
◎図-23 ファイルの非表示

第4章 ファイルの アトリビュート属性

ファイルのアトリビュート属性表示

▶ ウィンドウ内のアトリビュート属性の表示

ファイルのアトリビュート属性を画面に表示するときは、**[A]** キーを押します。すると、ファイルの右側に属性が表示されます。



◎図-24 ファイルのアトリビュート属性の表示

それぞれの属性の意味は表-1 になっています。

◎表-1 ファイル属性の一覧

●MS-DOSのディスクの場合

R	リードオンリーファイル
S	システム・ファイル
H	隠しファイル
A	圧縮ファイル

●MS-DOSメディア以外のディスクの場合

Ba	Basicファイル
Bi	バイナリ・ファイル
Dt	データ・ファイル
As	アスキー・ファイル

▶起動スイッチによるアトリビュート属性の表示

XDIRを起動するとき、ドライブ名の後ろに次のようにオプションスイッチを付加して入力すると、ファイルのアトリビュート属性を表示した画面が起動します。

A>XDIR A: /FA 

アトリビュート属性の変更

ファイルのアトリビュート属性を変更する場合は、**SHIFT** + **A** のキー操作を行います。すると、次のメッセージが表示されます。

属性 (RHS) >

ここで、変更したい属性を「R」、「H」、「S」の中から選んで指定します。

属性を解除するときには同じ操作を繰り返します。つまり、R（リードオンリーファイル）の属性設定を行ったファイルは、もう一度Rの属性変更を行うことによって指定が解除されます。

第5章 ファイル・ ディレクトリ操作

画面操作

XDIRのウィンドウ内におけるカーソル移動などのキー操作は、表-2のとおりです。

◎表-2 ウィンドウ内のカーソル操作

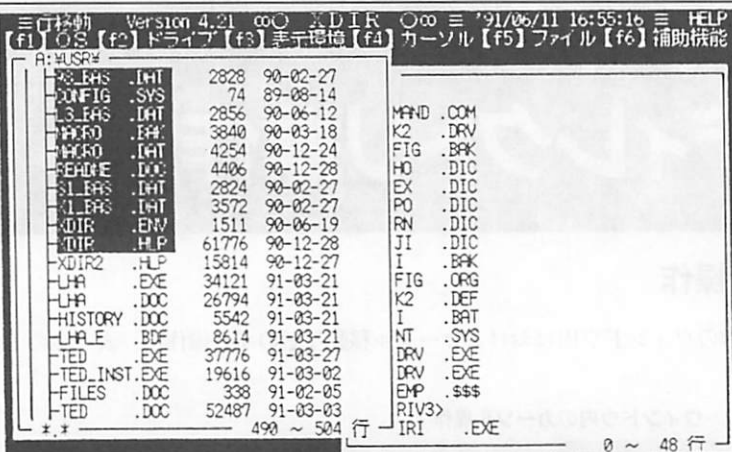
カーソルの上方移動	
カーソルの上方移動（3行飛び越し）	+
カーソルの下方移動	
カーソルの下方移動（3行飛び越し）	+
左移動(1行に複数のファイルを表示した場合)	
右移動(1行に複数のファイルを表示した場合)	
半ページ巻き下ろし	・
半ページ巻き下ろし（高速スクロール）	+ ・
半ページ巻き上げ	・
半ページ巻き上げ（高速スクロール）	+ ・
ファイルの末尾に移動	+
画面を表示しなおす	

複数ファイルの削除・ディレクトリの削除

ウィンドウに表示されている複数のファイルを削除する場合には、まずファイルをマークする必要があります。

ファイルのマークは $\textcircled{A}$ キーで行います。

カーソルを削除したいファイルの上において $\textcircled{A}$ キーを押すと、ファイルがマークされカーソルはひとつ下に移動します。この操作を繰り返し、削除したいファイルをすべてマークします。



◎図-25 複数ファイルのマーク

このマークしたファイルを削除するには、カーソルをマークしたファイルの先頭に移動して $\textcircled{K}$ キーを押します。すると、次の確認メッセージが表示されますので、 $\textcircled{Y}$ キーを押してマークした全ファイルを削除します。

マーク設定ファイルを削除してもいいですか 【Y/N】

《注》 特定のファイルのマークを解除する場合は、カーソルを解除を行いたいファイルの上に移動して $\textcircled{A}$ キーを押します。

すべてのファイルのマークを解除する場合は、カーソルをマークしたファイルの先頭に移動して $\textcircled{GRPH}$ + $\textcircled{A}$ キーを押します。

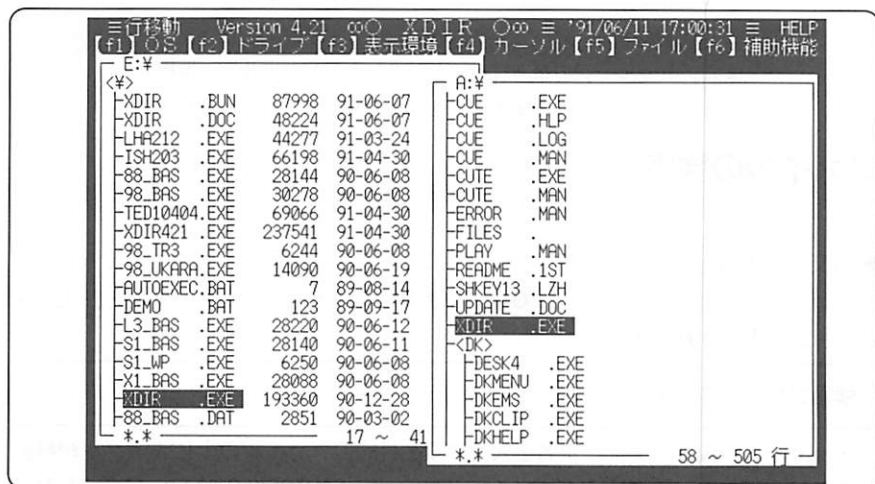
《注》 マークされていないファイルの上で $\textcircled{K}$ キーを押すと、そのカーソルがあるファイルとディレクトリのみを削除します。

《注》 ディレクトリの削除もファイル削除と同様の方法で行うことができます。ディレクトリを削除した場合、中のファイルもすべて削除されます。

ファイルのコピー

▶カーソル位置のファイルコピー

特定のファイルを別のウィンドウにコピーするには、まず、カーソルをコピーしたいファイルの上に移動して[C]キーを押します。すると、カーソルは隣のウィンドウに移ります。次に、親ディレクトリ「<¥>」の位置にカーソルを合わせて[J]キーを押すとファイルコピーが完了します。



●図-26 ファイルコピーの終了後

▶複数ファイルのコピー

ウィンドウ内のすべての実行ファイルを別のドライブにコピーするには、複数ファイルの削除と同様に、まず、コピーしたいファイルを[@]キーを押して指定します。

次に、カーソルをマークしたファイルの先頭に移動して[C]キーを押します。

コピー先に同名のファイルがあり、タイムスタンプが同じか新しい場合には、コピーを行うかどうかの確認メッセージが表示されます。

《注》 ファイルのコピーは[ESC]キーで中断します。マウスを使用しているときは、マウスのクリックでも中止できます。

ファイル名の変更

たとえば「AUTOEXEC.BAT」を「AUTOEXEC.ORG」という名前に変更する場合には、まずカーソルを「AUTOEXEC.BAT」の上に移動して[N]キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

新ファイル名〉

ここで、メッセージの後ろに新しいファイル名を入力します。

AUTOEXEC.ORG 

《注》 新しいファイル名を入力するときに、ファイル名だけでなくパス名と一緒に入力すると、新しいファイルがパスで指定されたディレクトリに移動します。

また、メッセージの後ろにパス名だけを入力した場合は、選択したファイルが同じ名前のまま指定されたディレクトリに移動します。

ファイルの検索

▶ 頭文字の検索

ファイルの検索を行うときは、**[G]**キー（大文字のみ）を押します。すると、次のメッセージが表示されます。

検索ファイル名(*.*)〉

メッセージの後ろにファイル名を入力すると目的のファイルの上にカーソルが移動しますが、頭文字がAで始まるファイル（たとえば「AUTOEXEC.BAT」）を検索したい場合、次のように入力するとカーソルがAで始まるいちばん近いファイルに移動します。

A*.* 

▶ マークファイル検索

マークファイルの検索を行う場合も**[G]**キー（大文字のみ）を押しますが、メッセージの後ろにファイル名を入力するときは、次のように入力します。

@.* 

《注》 小文字の**[g]**キーを押すと、前回検索したデータのリピートしか行いません。

《注》 逆方向に検索を行うときは、**[SHIFT] + [G]**のキー操作を行ってく

ださい。

ファイルのソート

ファイルをソートするときには、**[S]**キーを押します。すると、次のメッセージが表示されますので、ソートする条件のキーを押してください。

ソート順 (N,E,D,L,C)

それぞれの文字キーのソート条件は次のとおりです。

◎表-3 ファイルのソート条件

[N]	ファイル名
[E]	拡張子
[D]	日時
[L]	ファイル長
[C]	キャンセル(初期検索時に戻す)

ファイルツリー構造の出力

▶ファイルツリー構造のテキストファイル出力

ファイルのツリー構造をテキストファイルの形式で出力するときは、**[O]**キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

ツリーの出力ファイル名 >

ここで、出力するファイル名 (たとえば「TREE.TXT」) を入力します。

TREE.TXT 

すると、確認メッセージが表示されますので、**[Y]**キーを押すとツリー構造がテキストファイル形式で出力されます。

ファイルツリーをファイルに出力します **[Y/N]**

▶ ファイルツリー構造のプリンタ出力

ファイルのツリー構造をプリンタに出力するときは、**[P]**キーを押します。すると、確認メッセージが表示されますので、**[Y]**キーを押すとツリー構造がプリンタに出力されます。ただし、「PRINT.SYS」が組み込まれている必要があります。

ファイルツリーをプリンターに出力します **[Y/N]**

サブディレクトリの作成

サブディレクトリの作成、たとえば「XDIR-DOS」という名前のディレクトリを作成するときは、**[GRPH]+[D]**キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

作成するディレクトリ名： >

ここで、作成するディレクトリ名「XDIR-DOS」を入力すると、新しいディレクトリが作成されます。

XDIR-DOS 

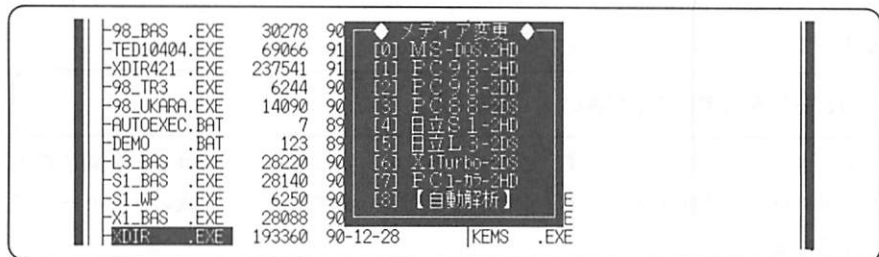
```

├─TED_BUG .TXT      1349  91-03-27  NT .SYS
├─TED_COPY.DOC     2840  91-03-27  DRV .EXE
├─HS .BAT           10  91-03-11  DRV .EXE
├─HSC .COM         10723 91-03-11  EMP $$$
└─XDIR-DOS 91-06-11 16:53  RIV3>
  *,* 504 ~ 504 行 IRI .EXE 0 ~ 48 行
```

◎図-27 サブディレクトリの作成

第6章 ディスクコピー

フロッピーディスクのコピーを行うには、まず[GRPH]+[C]キーを押し、次に転送元のドライブ名を尋ねるメッセージの後ろにドライブ名を入力します。すると、メディアの選択メニューが表示されます。



◎図-28 メディア変更

ここで、通常は「[0] MS-DOS.2HD」を選択し、転送先のドライブ名を尋ねるメッセージの後ろに[0]を入力します。次に、

テンポラリファイルを作成しますか (Y/N) >

と聞いてきますので、[Y]キーを押します。

《注》 日立S1などMS-DOSマシン以外の2HD・2DDディスクのコピーも可能な点がXDIRの大きな特徴のひとつです (XDIR423のみ)。

《注》 テンポラリファイル (一時作業ファイル) をRAMディスクなどに作成するとコピーの速度が増します。ただし、1.3MBほどの空き容量が必要です。

第7章 ファイルの 圧縮・展開

ファイルの圧縮

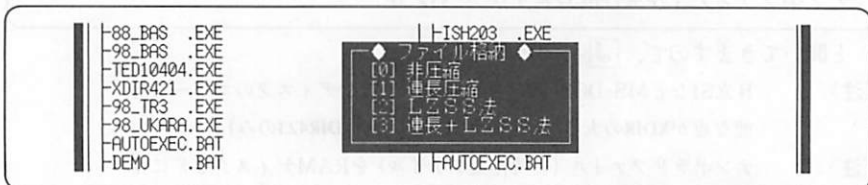
ファイルを圧縮して書庫に冷凍するには、まず圧縮（冷凍）したいファイルの上にカーソルをおき、**[GRPH] + [P]**キーを押します。複数のファイルを選択することもできます。すると、次のメッセージが表示されます。

コピー先を指定してください（書庫入れ）

そこでカーソルを動かします。ここでの指定の方法はファイルのコピーと同じですが、通常はその書庫を入れるディレクトリを指定します。すると、次のメッセージが表示されます。

書庫のファイル名： >

ここで書庫のファイル名（たとえば「KARI」）を入力すると、次にファイル格納のメニューが表示されます。



◎図-29 ファイル格納メニュー

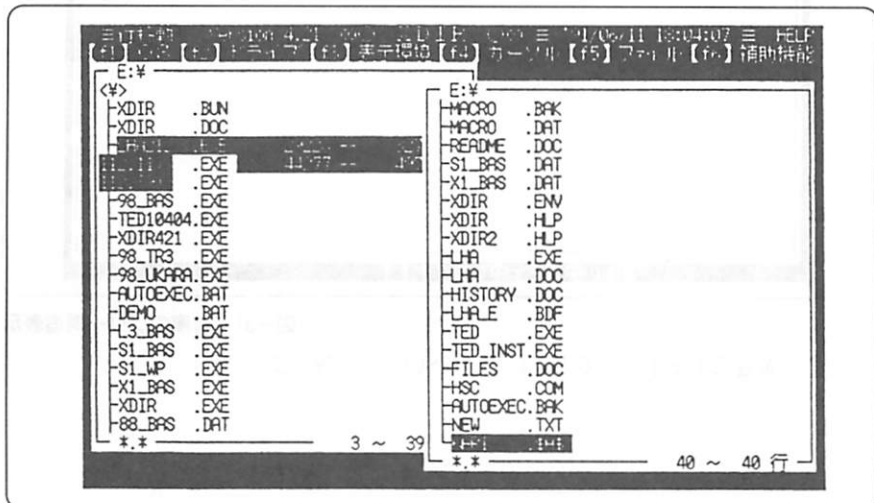
メニューに表示されている圧縮の方法は、表-4のとおりです。

◎表-4 ファイル格納の内容

0	非圧縮	アーカイブのみで圧縮しない
1	連長圧縮	アーカイブと連長圧縮
2	LZSS法	アーカイブとLZSS法で圧縮
3	連長+LZSS法	アーカイブと連長圧縮+LZSS法で圧縮

圧縮率の高さは [0] < [1] < [2] < [3] の順で「[3] 連長+LZSS法」が最も圧縮率が高く、圧縮速度については [0] > [1] > [2] > [3] という順で「[0] 非圧縮」が最も速くなります。

このメニューの選択が終了すると、書庫が作成されます。



◎図-30 書庫

ファイルの展開

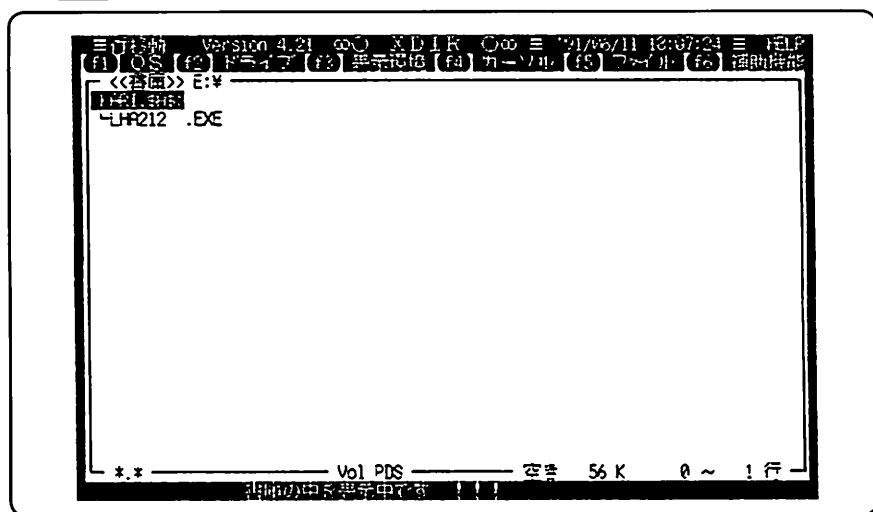
書庫の中のファイルを展開するときは、まずカーソルを書庫ファイルの上におき、**[GRPH] + [U]** キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

コピー先を指定してください (書庫出し)

そこでカーソルを動かします。ここでの指定の方法はファイルのコピーと同じですが、通常はその書庫を展開する (ファイルを入れる) ディレクトリを指定します。すると、ファイルが展開されます。

書庫のツリー構造表示

書庫の中をツリー構造で表示するときには、カーソルを書庫ファイルの上におき、**GRPH** + **B** キーを押します。



◎図-31 書庫のツリー構造表示

ツリー構造表示を中止するときには、**ESC** キーを押します。

第8章 MS-DOSコマンド、 プログラムの起動

予約コマンドの実行

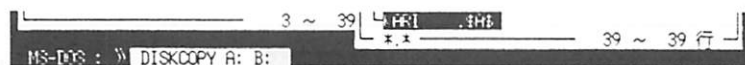
予約コマンドとは、XDIRの中にあらかじめ登録してあるコマンドのことです。

[H]キーを押すと予約コマンドのメニューが表示されますので、実行したいコマンドを数字キーで選択します。



◎図-32 コマンド・メニュー

すると、コマンドのメニューが表示されますから、付加する必要があるパラメータやオプションがある場合には、そこで付加して[Enter]キーを押します。



◎図-33 予約コマンドの実行メニュー

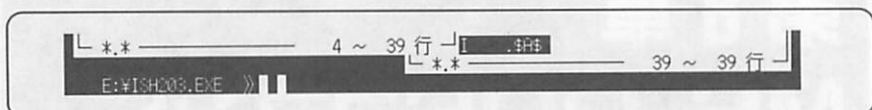
《注》 予約コマンドは10個まで登録可能で、ひとつのコマンドの文字数は最大40字までです。予約コマンドの変更や追加設定を行う場合は、[SHIFT] + [H] キーを押してください。

また、予約コマンドは「COMMAND.COM」がロードできる環境でないと実行しません。

指定ファイルの実行

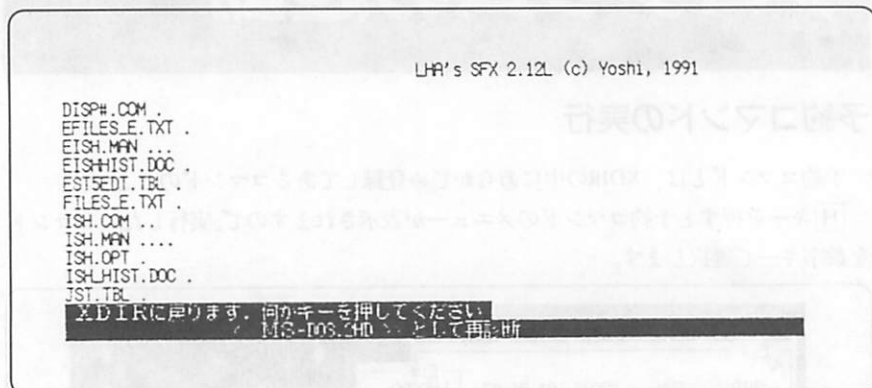
XDIRを終了することなく他のプログラムを実行したい場合は、カーソルを目的のプ

ログラムファイルの上におき、**[R]**キーを押します。すると、プログラムの実行メニューが表示されます。



◎図-34 プログラムの実行メニュー

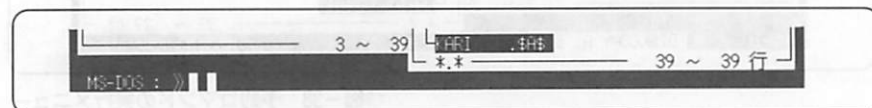
付加する必要があるパラメータやオプションなどがある場合には、ここで付加して**[J]**キーを押します。すると、図のようにプログラムが起動します。



◎図-35 プログラムの起動画面「LHA212.EXE」

MS-DOSコマンドの実行

MS-DOSコマンドを実行したい場合には、**[M]**キーを押します。すると、画面下部にコマンドラインが表示されます。ここに実行したいコマンドを入力して**[J]**キーを押します。



◎図-36 MS-DOSコマンドの実行メニュー

第9章

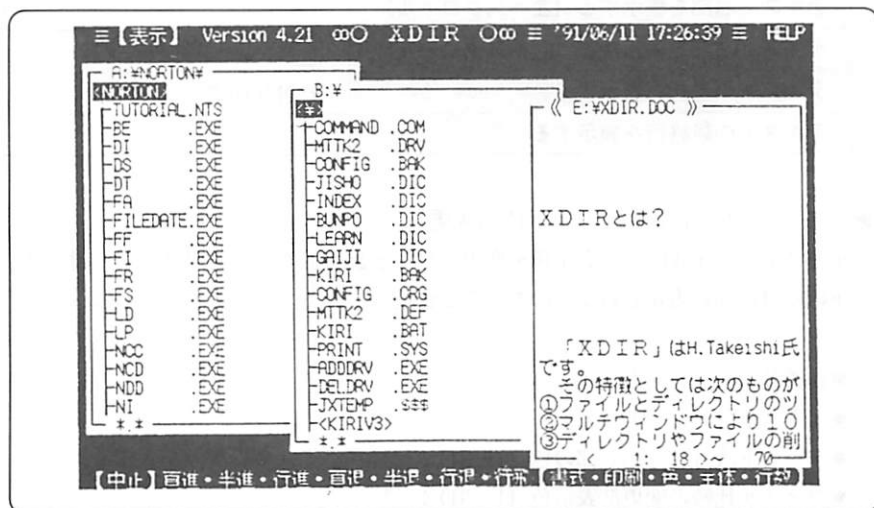
テキストファイル画面

テキストファイル表示画面

▶テキストファイルの内容表示

テキストファイルの内容を表示したい場合には、カーソルの中身を表示させたいファイルの上において「?」キーを押します。

【注】 ここでいう「?」キーとは、**SHIFT** + **/** のことではありません。文字キーだけを押ししてください。**SHIFT** + 「?」キーを押すと16進ダンプ画面になってしまいます。

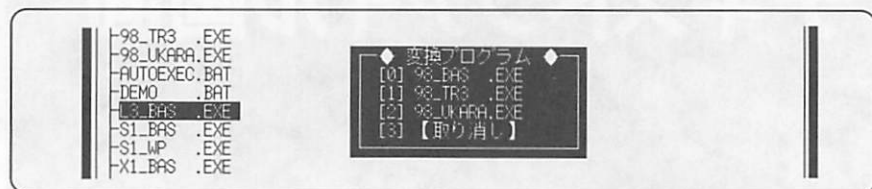


◎図-37 テキストファイルの内容表示画面

テキストファイルの内容表示を終了したいときには、**ESC** キーを押します。

《注》 テキストデータが1行以内に表示できない場合、超過分は次の行に緑色で表示されます。ただし、行番号は同じです。

指定したファイルがアスキーファイルでない場合には、表示するために変換が必要となるため、図-38のような変換メニューが表示されます。



◎図-38 変換プログラムメニュー

◎表-5 テキストファイル画面の画面操作

1 ページ前進する〔頁進〕	↓
半ページ前進する〔半進〕	ROLLUP ・ INS
1 行前進する〔行進〕	↓
1 ページ後退する〔頁退〕	SPACE
半ページ後退する〔半退〕	ROLLDOWN ・ DEL
1 行後退する〔行退〕	↑
テキスト右部を表示する（左へスクロール）	→
テキスト左部を表示する（右へスクロール）	←
テキストの最初を表示する	HOMECLR
テキストの最終行を表示する	.

▶テキストファイル画面の表示色の変更

テキストファイル画面の表示色を変更したいときは、**[C]** キーを押します。すると、以下の項目が順に表示されますので、そこで設定します。

- 行番号の色（1～31）： >
- テキスト色（1～31）： >
- テキスト次行はみ出し部の色（1～31）： >
- ファイル比較の変更部表示色（1～31）： >

《注》 表示色については、付録 C の番号対応カラー表を参照してください。

▶テキストファイル画面の書式変更

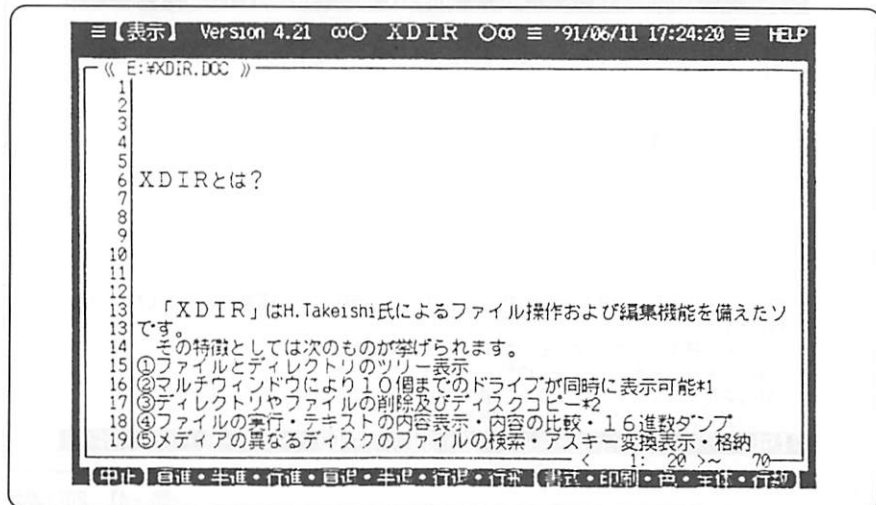
現在画面に表示されている書式を変更するときは、**[S]**キーを押します。すると、以下の項目が順に表示されますので、そこで設定します。

- タブ表示幅 (～4～8～16～) : >
- 行番号桁数 【0 (なし) ～ 6】: >
- 表示幅 (～80～136～) : >

- タブ値
- ・初期値は8になっています。
 - ・タブを指定した数の半角スペースに変換します。
 - ・原則として2桁の入力を求めます。1桁の場合は**[.]**が必要です。
 - ・行番号の桁数を入力します (行番号が不要な場合は0)。
 - ・印字幅を3桁で入力します。それ以下の桁数では**[.]**が必要です。

▶テキストファイル画面での横枠の消去

テキストファイル画面をウィンドウ内で見る場合、横幅が狭くて不便ことがあります。そういうときは、**[Z]**キーを押して画面を全体表示に切り替えると便利です。



◎図-39 テキストファイル画面の全体表示

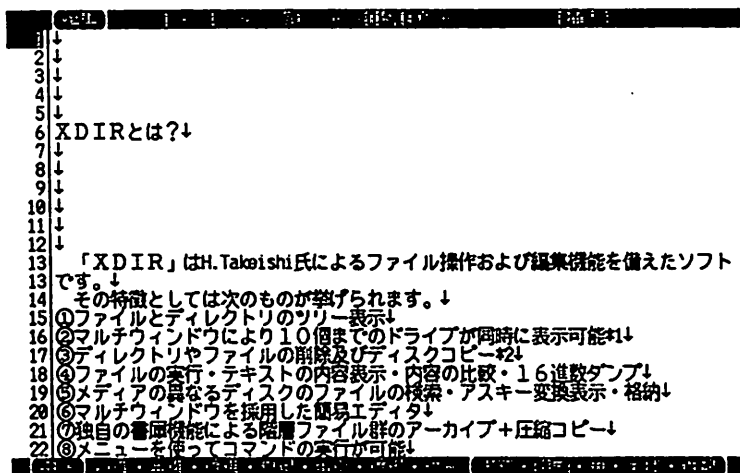
画面を元のサイズに戻すときは、もう一度**[Z]**キーを押します。

▶テキストファイル画面の表示行数の切り替え

テキストファイル画面の全体表示が行われているとき、画面の行数を25行表示また

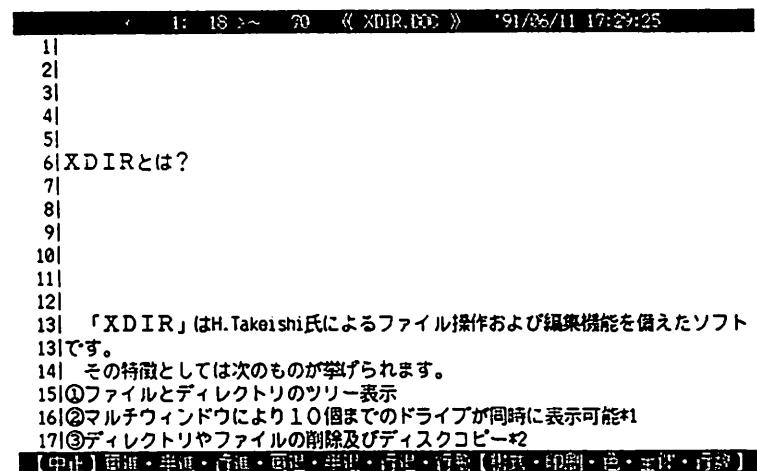
は20行表示に変更することができます。

全体表示画面の行数は、**[V]**キーを押すたびに切り替わります。



1 ↓
2 ↓
3 ↓
4 ↓
5 ↓
6 XDIRとは? ↓
7 ↓
8 ↓
9 ↓
10 ↓
11 ↓
12 ↓
13 「XDIR」はH.Takeishi氏によるファイル操作および編集機能を備えたソフト
14 です。 ↓
15 その特徴としては次のものが挙げられます。 ↓
16 ①ファイルとディレクトリのツリー表示 ↓
17 ②マルチウィンドウにより10個までのドライブが同時に表示可能 ↓
18 ③ディレクトリやファイルの削除及びディスクコピー ↓
19 ④ファイルの実行・テキストの内容表示・内容の比較・16進数デンプ ↓
20 ⑤メディアの異なるディスクのファイルの検索・アスキー変換表示・格納 ↓
21 ⑥マルチウィンドウを採用した簡易エディタ ↓
22 ⑦独自の書庫機能による隠層ファイル群のアーカイブ+圧縮コピー ↓
23 ⑧メニューを使ってコマンドの実行が可能 ↓

◎図-40 25行表示



1 ↓
2 ↓
3 ↓
4 ↓
5 ↓
6 XDIRとは? ↓
7 ↓
8 ↓
9 ↓
10 ↓
11 ↓
12 ↓
13 「XDIR」はH.Takeishi氏によるファイル操作および編集機能を備えたソフト
14 です。 ↓
15 その特徴としては次のものが挙げられます。 ↓
16 ①ファイルとディレクトリのツリー表示 ↓
17 ②マルチウィンドウにより10個までのドライブが同時に表示可能 ↓
18 ③ディレクトリやファイルの削除及びディスクコピー ↓
19 ④ファイルの実行・テキストの内容表示・内容の比較・16進数デンプ ↓
20 ⑤メディアの異なるディスクのファイルの検索・アスキー変換表示・格納 ↓
21 ⑥マルチウィンドウを採用した簡易エディタ ↓
22 ⑦独自の書庫機能による隠層ファイル群のアーカイブ+圧縮コピー ↓
23 ⑧メニューを使ってコマンドの実行が可能 ↓

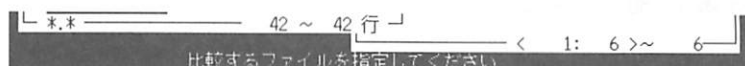
【中止】 駆進・準進・音進・可退・準退・行退・行整【書式・印刷・色・実行・行整】

◎図-41 20行表示

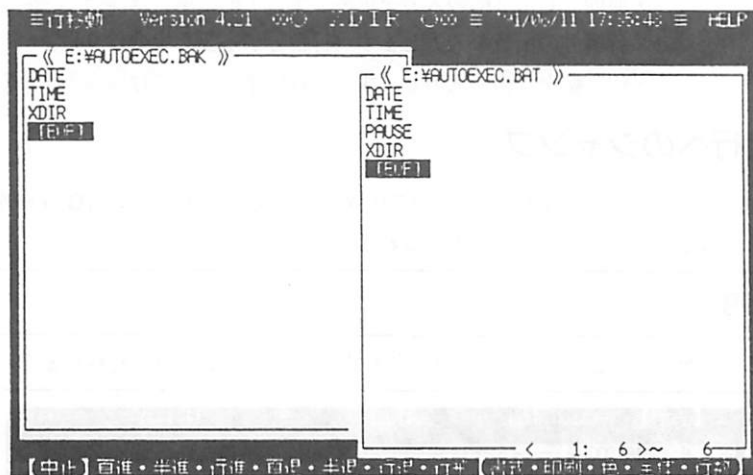
テキストファイルの内容比較

テキストファイルの内容を比較するには、まず、片方のテキストファイルの上にカーソルをおき、**[?]**キーを押してファイルの内容を表示します。次に、**[F]**キーを押すと比較する相手のファイルを指定するように求めてきますので、カーソルを比較する

テキストファイルの上に移動して[Enter]キーを押します。すると、2つのファイル内容の異なった部分が表示されます。



◎図-42 比較ファイルの選択



◎図-43 ファイル内容の比較結果

[ESC]キーを押すとファイルの内容比較中断し、他のキーを押すと継続します。

表示テキストファイルの印刷

現在表示しているテキストファイルを印刷するときは、[P]キーを押します。すると、テキストファイルの書式設定の場合と同様に、以下のメッセージが順に表示されますので、設定します。

- 《注》 XDIRの印刷機能を使用するには、あらかじめプリンタドライバを組み込んでおく必要があります。

- タブ表示幅 (～4～8～16～): >
- 行番号桁数 【0 (なし) ～ 6】: >
- 表示幅 (～80～136～): >

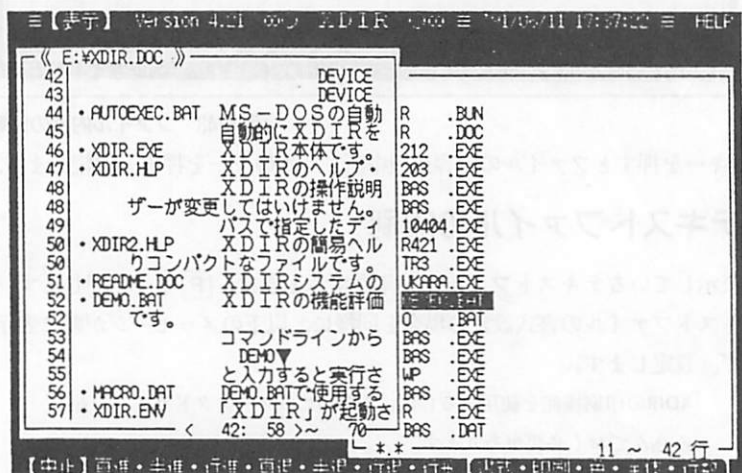
- タブ値
- ・初期値は8になっています。
 - ・タブを指定した数の半角スペースに変換します。
 - ・原則として2桁の入力を求めます。1桁の場合は[]が必要です。
 - ・行番号の桁数を入力します (行番号が不要な場合は0)。
 - ・印字幅を3桁で入力します。それ以下の桁数では[]が必要です。

指定行へのジャンプ

テキストファイルの指定行 (たとえば50行め) に移動したいときは、[G]キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

行番号: >

ここで「50[]」と入力すると、50行めが表示されている画面に変わります。



◎図-44 指定行へのジャンプ

表示テキストファイルのメモリマップ

現在表示しているテキストファイルのメモリの使用状況を知りたい場合は、**[M]** キーを押します。すると、図-45のようなメモリマップが表示されます。

		DEVICE	
43	• AUTO		
44		テキスト表示編集領域	61E68 ~ 94008 (205384)
45		作業域1	61E68 ~ 62367
46	• XDIR	テキスト	62368 ~ 6241F
47	• XDIR	ファイル(1) 行属性	62420 ~ 625EE (69行)
48		テキスト	62D00 ~ 63819 (2809)
49		ギャップ	63819 ~ 6441F (3079)
50	• XDIR	空き領域	64420 ~ 92007 (187368)
51		作業域2	92008 ~ 94008
52	• READ		
	• DEMO.BAT	XDIRの機能評価	EXEC.BAT

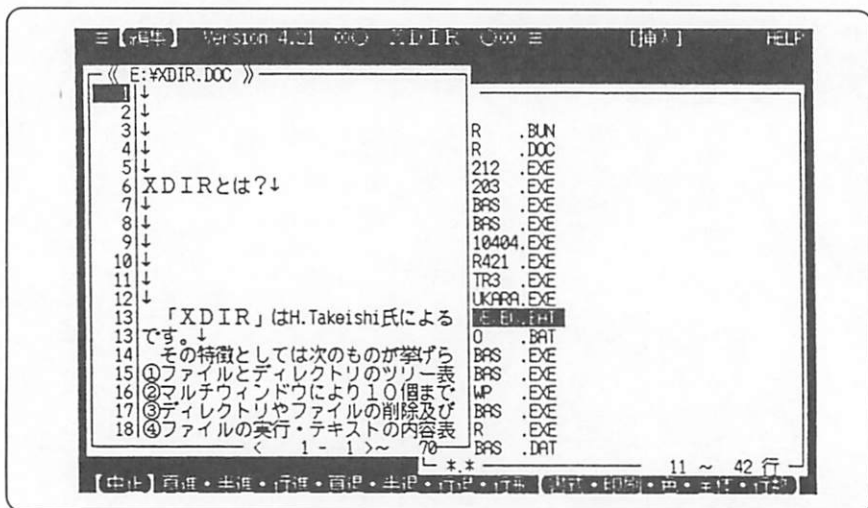
◎図-45 表示テキストファイルのメモリマップ

第10章

テキストファイル・エディタ

テキストファイルの読み込み

テキストファイルを編集したいときには、まずカーソルを編集対象とするテキストファイルの上におき、**[E]**キーを押します。すると、XDIRのエディタが起動し、テキストファイルの編集が行える状態になります。



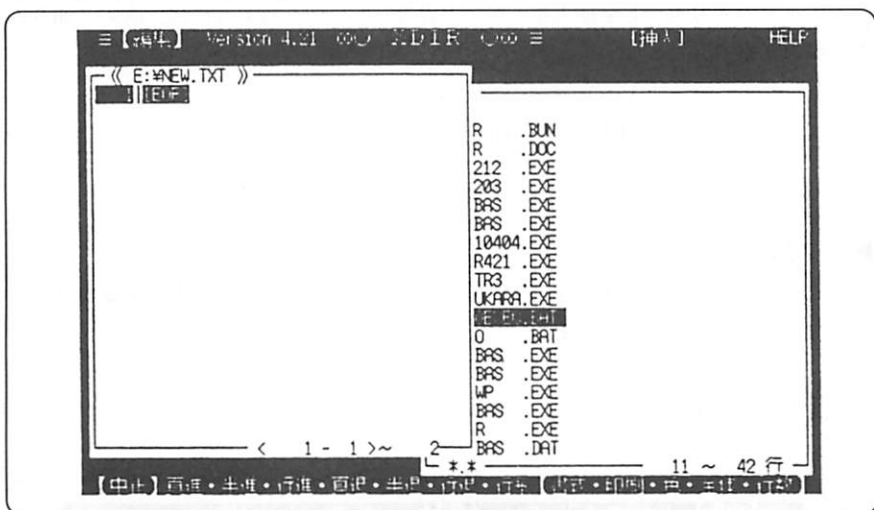
◎図-46 XDIRのエディタ画面

新規テキストファイルの作成

新規にテキストファイルを作成したい場合は、カーソルをディレクトリ表示の部分の上に移動して**[E]**キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

編集するファイル名： >

ここで、新しいファイル名（たとえば「NEW.TXT」）を入力して[Enter]キーを押します。すると、図-47のような新規テキストファイルが作成されます。



◎図-47 新規テキストファイル

《注》 この新規テキストファイルは、最初にカーソルを置いたディレクトリ中に作成されます。

テキストファイルの保存

現在読み込んでいるXDIRのエディタがテキストファイルを保存するには、次のどちらかのキー操作を行います。この操作で編集済テキストファイルが保存されます。

[ESC]→[E] or [CTRL]+[E]

エディタの終了

XDIRのエディタを終了するには、次のどちらかのキー操作を行います。

[ESC]→[Q] or [CTRL]+[Q]

これでエディタは終了します。

エディタの各種操作

▶ 入力モードの切り替え

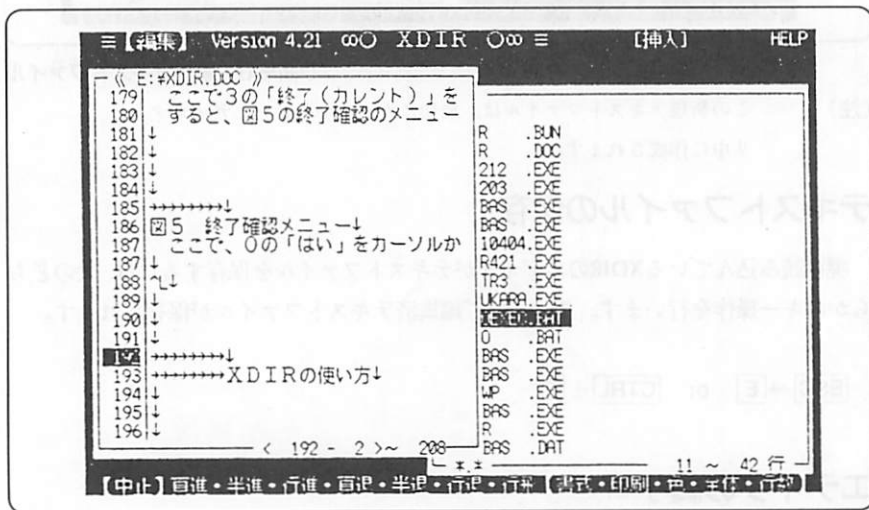
エディタの入力モードを挿入モード／上書モードに切り替えるには、次の3通りの方法があります。

[ESC] → [I] or **[CTRL] + [I]** or **[INS]**

▶ タブ表示

エディタの通常画面では空白と区別がつけられないタブを画面に表示するには、次のどちらかのキー操作を行います。

[ESC] → [T] or **[CTRL] + [T]**



◎図-48 タブ表示

▶ カーソル位置から行末までのカット

現在カーソルがある位置以降の文字を削除したいときには、次のどちらかのキー操作を行います。

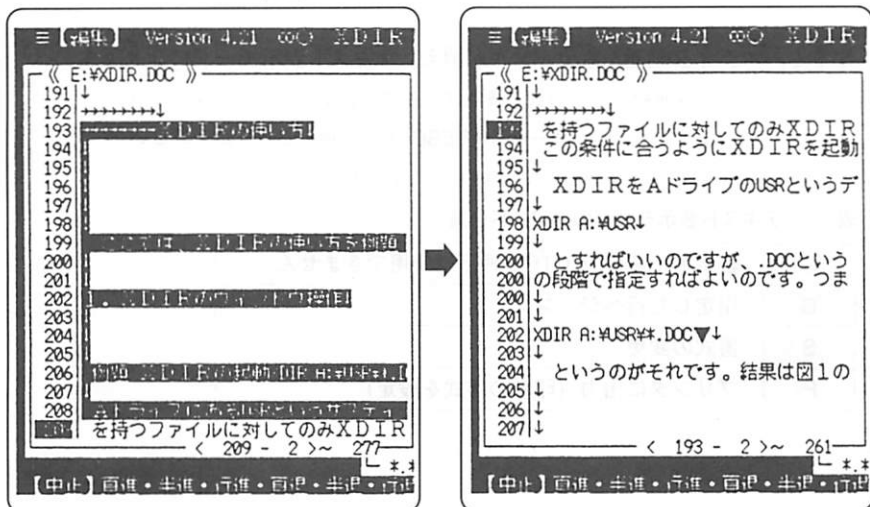
[ESC] → [K] or [CTRL] + [K]

▶ 行範囲を指定しての削除

特定の範囲の文字を削除したい場合には、まず行範囲の指定を行います。

[F6] キーを押すと範囲指定が設定できますので、カーソルキーを押して削除する範囲を指定します。

範囲指定が終了したら [F7] キーを押します。すると、その範囲が削除されます。



◎図-49 行範囲指定による削除

▶ 行範囲を指定しての複写

特定の範囲の文字を複写したい場合には、行範囲削除の操作と同様にまず行範囲の指定を行います。

[F6] キーを押すと範囲指定が設定できますので、カーソルキーを押して複写する範囲を指定します。

範囲指定が終了したら [F7] キーを押します。すると、その範囲が記憶されますので、コピーする場所にカーソルを移動し、[F9] キーを押して文字を複写します。

テキスト表示モードへの移行

テキストファイルを編集しないでファイルの内容を眺めるだけであるなら、テキスト表示モードに移行しておくほうが、間違ってファイルの内容を変更してしまう危険がありません。

エディタ画面からテキスト表示モードに移行するには、次のキー操作を行います。

ESC → **?**

すると、エディタ画面からカーソルが消え、テキスト表示モードになります。

《注》 エディタ画面でも下の表の機能はテキスト表示モードと同様に使用できます。ただし、キー操作が**ESC**キーを押してからか、あるいは**CTRL**キーを押しながらのものになります。

◎表-6 テキスト表示モードのコマンド一覧

C	表示色の変更 (CTRL 押下は使用できません)
G	指定した行へジャンプ
S	書式の変更
P	プリンタに出力 (印字の書式を設定)

第11章 ダンプ画面

ファイルの16進ダンプ画面

ファイルの16進ダンプ画面を表示したい場合は、カーソルを見たいファイルの上におき、**[SHIFT] + [?]** キーを押します。すると、16進ダンプ画面が表示されます。

```

      《 ISH203.EXE ⟩          '91/06/11 17:39:49
000000: 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 0A 0B 0C 0D 0E 0F  MZ.....
000010: 00 01 00 00 00 01 F0 FF 1C 00 00 00 00 00 00 00  .....
000020: EB 79 20 00 4C 48 41 27 73 20 53 46 58 20 32 2E  ·LHA's SFX 2.
000030: 31 32 4C 20 28 63 29 20 59 6F 73 68 69 2C 20 31  12L (c) Yoshi, 1
000040: 39 39 31 0D 0A 00 52 65 6E 61 6D 65 20 74 6F 20  991...Rename to
000050: 49 53 48 32 30 33 2E 45 58 45 00 54 00 4F 76 65  ISH203.EXE:Ove
000060: 72 77 72 69 74 65 20 00 58 59 2F 4E 5D 20 00 42  rwrite [Y/N] .B
000070: 72 6F 6B 65 6E 20 66 69 6C 65 20 00 57 72 69 74  roken file .Writ
000080: 65 00 48 65 61 64 65 72 00 43 52 43 20 45 72 72  e:Header CRC Err
000090: 6F 72 00 01 21 17 42 41 54 FF 00 FC 8C 00 01 8C  or...!BAT.....己
0000A0: C8 05 88 00 8E C0 E8 D6 05 BB 04 01 E8 58 02 06  ...実行...
0000B0: 1F B4 30 CD 21 88 D8 1E 3C 03 72 1C 36 8E 06 2C  ·IOハル<...6...
0000C0: 00 33 C0 8B F8 B9 FF F2 AE FE 75 FB 40 FF 06  ·39国...当...
0000D0: 1F 8B 07 75 03 E8 22 00 0E 1F BA 30 01 E8 1A 00  ·金...30...
0000E0: 80 FB 02 75 0F 36 A1 02 00 2D 38 00 8E D8 BA 09  ·u...6...8...借...
0000F0: 00 E8 06 00 BB 26 01 E9 68 01 B8 00 3D CD 21 73  ·...%&...取...=!s
  
```

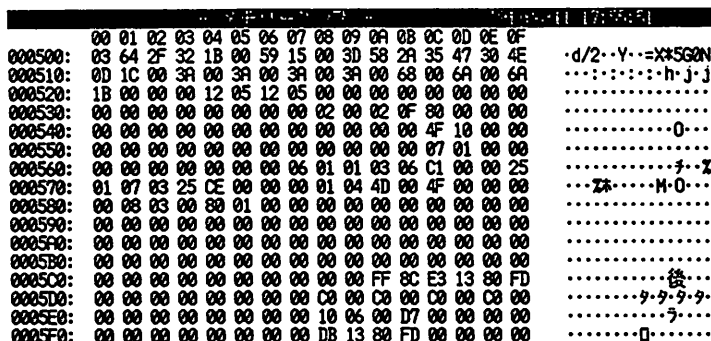
◎図-50 ファイルの16進ダンプ画面

メモリダンプ

メモリダンプを表示したい場合には、XDIRのファイルが表示されている画面で**[X]**キーを押します。すると、次のメッセージが表示されます。

セグメント >

ここでセグメント値を入力すると、メモリダンプが表示されます。



The screenshot shows a memory dump interface. At the top, there's a title bar with some text and a date/time display. Below it, a grid of memory addresses and their corresponding data is shown. The addresses range from 000500 to 0005F0. The data is displayed in hexadecimal (two columns) and ASCII (two columns). The ASCII column shows various characters, including letters, numbers, and symbols. The interface is typical of a debugger or system utility.

◎図-51 メモリダンプ画面

この画面では、表-7の操作が可能です。

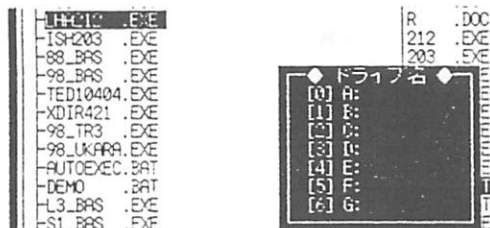
◎表-7 メモリダンプ画面でのキー操作一覧

セグメント変更	[S]
プリンタ出力	[P]
中止	[ESC]
1 ページ進む	上記以外のキー

〈注〉 [SHIFT] + [X] キーを押すと、現在システムのMCB・PSPセグメントからダンプを表示するため、セグメント値を入力する必要はありません。

トラックの16進ダンプ

フロッピーディスク（あるいはハードディスク）のトラック内容を16進ダンプ画面に表示する場合には、[L] キーを押します。



◎図-52 ドライブ選択メニュー

ドライブ名を選択するメニューが表示されてから、トラック内容を見たいフロッピーディスク（ハードディスク）のドライブを指定します。

すると、次のメッセージが表示されます。

トラック番号 >

ここでトラック番号を入力すると、指定したトラックの16進ダンプ画面が表示されます。また、**[ESC]**キーを押すと終了します。

```

三行移動 Ver:4.21 000 実行中 000 11 17:53:37 三 HELP
/ ディレクトリ: [C:\DOS\50] トラック番号: 05 5 ヤマダ電子 (1024)
000100: 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 0A 0B 0C 0D 0E 0F  .V7; .グt煤V7; .カ
000110: 22 72 47 A1 B8 22 3B 06 54 B8 72 3E A1 54 B8 8B  "rG.グ; .Tク>.Tク
000120: 0E B6 22 3B C1 74 13 77 09 49 E8 23 FF E8 00 FF  .カ; .チ.w.I.#.....
000130: EB 08 91 49 E8 19 FF E8 E6 FE A1 B8 22 8B 0E 56  ..道...謎.グ.V
000140: B8 3B C1 74 13 77 09 40 E8 05 FF E8 E2 FE EB 08  ク.チ.w.0...疑...
000150: 91 40 E8 FB FE E8 C3 FE EB 90 A1 B6 22 8B 0E B8  読解... .ガ...ク
000160: 22 E8 EC FE E8 B9 FE A1 54 B8 8B 0E 56 B8 E8 DF  "露.露.Tク.V7略
000170: FE E8 BC FE E9 73 FF E8 E5 FE CB E8 01 00 CB A1  .露.疑.疑.ヒ...ヒ
000180: B6 22 A3 54 B8 A1 B8 22 A3 56 B8 A1 B8 22 A3 58  ガ.Tク.グ.V7.グ.X
000190: B8 A1 BC 22 A3 5A B8 C3 E8 01 00 CB 83 3E B6 22  ク.シ.Zク...ヒ>カ
0001A0: FF 75 01 C3 A1 B8 22 A3 5C B8 A1 B6 22 8B 0E B8  .ロ.チ.ゴ"キ.カ...ク
0001B0: 22 E8 9C FE E8 79 FE FF 06 5C B8 A1 5C B8 3B 06  "陥.閉...キ.キ.
0001C0: BC 22 76 E6 C3 E8 01 00 CB F6 06 84 B8 FF 74 10  シ.V...ヒ... .ヒ
0001D0: F6 06 B5 22 FF 74 09 BE 01 00 40 4B FF 1E 20 23  ..オ.ヒ.セ.0K... #
0001E0: C3 E8 01 00 CB F6 06 84 B8 FF 74 0F F6 06 B5 22  テ...ヒ... .ヒ...オ
0001F0: FF 74 08 BE 01 00 4B FF 1E 24 23 C3 80 3E F0 EA  .ヒ.セ.K...$#テ>14

```

◎図-53 トラックの16進ダンプ画面

この画面では、表-8の操作が可能です。

◎表-8 トラックの16進ダンプ画面のキー操作一覧

トラック番号入力（２）へもどる	ESC																		
プリンタに出力	P																		
現在トラックのはじめから	S																		
変換ファイルによりデータ変換	T																		
現在トラックのセーブ	W																		
１行下へ	↓																		
１行上へ	↑																		
右へ	→																		
左へ	←																		
次のページへ	ROLLUP																		
前のページへ	ROLLDOWN																		
現在位置を編集	<table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F			
1	2	3	4	5	6	7	8	9											
A	B	C	D	E	F														

付録A

XDIRのマクロ

XDIRのマクロはキーマクロに似たものです。マクロのコマンドには以下のものがあります。

- ①指定文字列より取り込む : /K
- ②指定したファイルより取り込む : /L
- ③マクロファイルの実行 : /I

- ・マクロでは **TAB**・**␣** などスペース [' '] より小さいコード (00~1F) は無視されます。
- ・アポストロフィの間 (['] から ['] までの部分) は注釈文とみなされます。
- ・#はメニュー 1~6 の選択指定をわかりやすくするためのダミーコマンドで、付けなくてもかまいません。
- ・各アルファベットは、以下のキー押下を意味します。
 - 「s」→ **SHIFT**
 - 「a」→ **CAPS**
 - 「k」→ **カナ**
 - 「g」→ **GRPH**
 - 「t」→ **CTRL**
- ・「w」はマクロ実行の休止時間を 0~100 (100mS単位) の範囲で設定します。
- ・「,」は数字コマンドと指定数字を区切るためのダミー記号です。

(例) デモ用のマクロファイル

```
aGMACRO.BAK ;   '指定したファイルの位置へ移動'  
>               'アクティブウィンドウのローテーション'  
sM1             '予約マクロでウィンドウ上下分割表示'  
/R7 ;           'マクロ実行中の休止間隔を700mSに設定'  
? ; uuuZuS8 ; 480 ; G1 ; Zf ; ufffdF ; ; uuu ; ; ; ; ; ; ; ; q ; ; ; ; ; ; ; q  
                '実行中のマクロデーターファイルをテキスト表示'  
B               'ウィンドウをひとつに統合'
```

付録B

ファンクションキーへの割り当て機能

f.1 OS	0	MS-DOSコマンド実行
	1	予約コマンド実行
	2	予約コマンド変更
	3	終了 (カレント)
	4	終了 (ウィンドウ)

f.2 ウィンドウ	0	ドライブ名変更
	1	カレントに変更
	2	ウィンドウ切り替え
	3	ウィンドウ併合
	4	窓オープン (枠再編成あり)
	5	窓オープン (枠再編成なし)
	6	窓クローズ (枠再編成あり)
	7	窓クローズ (枠再編成なし)
	8	メディア変更

f.3 表示環境	0	環境変更
	1	ファイル表示
	2	横ファイル複数表示
	3	サイズ日時 (F)
	4	サイズ日時 (D)
	5	ソート
	6	ファイル属性表示
	7	ファイル検索表示
	8	ドライブ情報
	9	罫線拡張

f.3 表示環境	A	罫線縮小
	B	階層拡張
	C	階層縮小
	D	画面再表示
	E	書庫内表示

f.4 カーソル	0	先頭行へ移動
	1	末行へ移動
	2	親ディレクトリへ移動
	3	カレントの移動
	4	カレントの復帰
	5	ファイルの検索（前方）
	6	ファイルの検索（後方）
	7	ファイルの検索（前方指定）
	8	ファイルの検索（後方指定）

f.5 テキスト表示	0	テキスト表示
	1	ファイルの16進ダンプ
	2	コピー
	3	コピー（以降）
	4	削除
	5	ファイル実行
	6	ファイル名変更
	7	ファイル作成
	8	マーク設定
	9	マーク全解除
	A	ファイル属性変更
	B	ツリー上の交換
	C	書庫作成（冷凍）
	D	書庫展開（解凍）

f・6	補助機能	0	ツリー印字
		1	ツリー出力
		2	XDIRマップ
		3	メディアマップ
		4	メモリーマップ
		5	メモリーダンプ
		6	クラスター計算
		7	キーマクロ実行
		8	キーマクロ設定
		9	ディレクトリ作成
		A	ディスクコピー
		B	ディスクダンプ

f・10	メニュー	0	前コマンド実行
		1	行移動
		2	枠移動
		3	枠移動（左上隅）
		4	枠移動（右下隅）
		5	枠移動軌跡
		6	確定（ ↓
		7	取消（ ESC

付録C

ヘルプファイル一覧(抜粋)

起動時のオプション・スイッチ

パラメーターの設定は順不同。ただし、ドライブ名を2つ以上指定した場合、2つめ以降はドライブ名以後のスイッチ内容が設定されます。

《注》 書式および設定内容は<コマンド・ライン>を参照してください。

▶ドライブ名・パス名

ドライブ名とパス名を指定します。

省略した場合はカレント・ドライブのカレント・ディレクトリに設定され、2つ以上指定した場合はマルチ・ウィンドウで分割表示されます。

(例) XDIR B: , XDIR A: USER , XDIR A: B:

MS-DOSの「DIR」と同様にドライブ・パス名のあとに検索ファイル名を追加します。機能はスイッチの「/?ファイル名」と同じです。

(例) XDIR A: USR¥*.BAS

メディアタイプを指定します。

(例) XDIR A: /OS1 (日立S1ディスクとして最優先的に検索)

コマンド一覧 (アルファベット順)

コマンド[キー]	機 能
[A]	アトリビュート属性の表示スイッチ <Attribute> R (読み専用ファイル) S (システム・ファイル) H (隠しファイル) A (アーカイブ・ファイル) MS-DOSメディア以外のディスクの場合 Ba (Basicファイル) Bi (バイナリ・ファイル) Dt (データ・ファイル) As (アスキー・ファイル)
+ [SHIFT]	アトリビュート属性を変更する 「R」「H」「S」を指定 (設定・解除はスイッチ方式)
[B]	マルチ・ウィンドウ表示を1画面表示にする <Break> ウィンドウの切り替えは [>] [<] コマンドで行う [+] コマンドでマルチウィンドウ表示にもどる
+ [GRPH]	書庫の中のファイル名を階層的にツリー表示 [ESC] : 中止
[C]	現在指定行のファイルをコピー <Copy> ディレクトリを指定した場合はそれより内部をすべてコピー 相手ウィンドウでコピー先のドライブ・ディレクトリ名を選択。 相手ウィンドウが開かれてない場合、ドライブ名を入力し、ウィンドウを開く。 コピーファイルが1個の場合は指定先がファイルでもよい。 現在行がマークの付いたファイルの場合、以降のマークの付いたファイルだけをコピーする。 指定先はディレクトリとする。 コピー先のファイルにはマークが付加される。 コピー先に同名のファイルがあり、タイムスタンプが同じか新しい場合、コピーするか確認【Y/N/A/I】する。 [Y] : コピーする [N] : コピーしない [A] : 指定したファイルを全てコピー (以後の確認なし) [I] : 更新されたファイルのみコピー (以後の確認なし) [ESC] : 中止
+ [SHIFT]	現在指定ファイル以降のファイル・ディレクトリをコピー コピーは、マウス・クリックか [ESC] で中断できる。

	+ GRPH	ディスクのコピー（PC-9800・日立S1などMS-DOS以外の2HD・2DDディスクのコピーも可能）転送元ドライブ名と転送先ドライブ名を指定テンポラリファイルの有無を選択する（1枚のディスクを複数枚コピーする場合、RAMディスクなどにディスク内容をコピーした方が2度め以降のコピーが速くなる。ただし、1.3MB程度の十分な空き容量が必要である）エラーが発生した場合 ESC で中止、その他のキーで継続する。（フォーマット未処理エラーの場合フォーマットしながらのコピーに変わる）
D	+ SHIFT	ファイルのサイズ・日時表示スイッチ <Date> ディレクトリの日時表示スイッチ
	+ GRPH	サブディレクトリを作成 <Directory> ディレクトリ名を入力
E		テキストファイルの編集 <Edit> ディレクトリ行で指定した場合、そのディレクトリの中に新しいファイルを作成。ファイル名を入力。 〔編集モードのコマンド〕 〔ESC 設定後、または CTRL 押下で以下のキーを押す〕 〔C〕：表示色の変更（CTRL 押下は使用してはいけない） 行番号・テキスト部・テキスト次行はみ出し部の色を1～31の範囲の値で設定（〔/C〕コマンド参照） 〔E〕：テキストをセーブして終了 〔G〕：指定した行へ移動 〔I〕：挿入・上書モードの切り替え（INS に同じ） 〔K〕：カーソル位置から行末までカット 〔L〕：カーソル行へカットバッハ行を挿入 〔P〕：プリンタに出力（印字の書式を設定） 〔Q〕：編集を終了 〔S〕：表示スタイルの変更 〔T〕：タブの表示スイッチ 〔W〕：テキストのセーブ 〔Y〕：カーソル行を削除し、内容をカットバッハへ格納 〔?〕：テキスト表示モードへ（CTRL 押下は動作しない）

		<F6> 行範囲指定 <code>[SHIFT]</code> 押下ではキャラクター単位の指定になる <F7> 行範囲をカットしバッハ領域へ格納 <F8> 行範囲をバッハ領域へ格納 <F9> バッハ内容をカーソル行へペースト
<code>[F]</code>		ファイル名表示のスイッチ (表示↔非表示) <File>
<code>[G]</code>		指定したファイル名の行へ移動する <Goto> ファイル名には「* ?」のワイルド表現を含むことができる マークの付いたファイルの検索はファイル名を「@. @.」とする (前方へ検索)
	+ <code>[SHIFT]</code>	後方へ検索 <code>[CAPS]</code> : ロック (検索ファイル名の設定変更あり) アンロック (検索ファイル名の設定変更なし)
<code>[H]</code>		予約コマンド (「FORMAT」、 「DISKCOPY」 など) の実行
	+ <code>[SHIFT]</code>	予約コマンドの変更・追加設定と実行 (「COMMAND.COM」 がロードできる環境でないと実行できない)
<code>[I]</code>		XDIREマップの表示とウィンドウの変更 <Information> (現在のカレント・ドライブ名も表示。変更は「J」コマンド) アクティブ・ウィンドウ (窓) 番号を0～9の範囲で入力 (1 桁入力) その他のキー入力でキャンセルされる
	+ <code>[SHIFT]</code>	MS-DOSシステムのメモリー・マップを表示 任意のキー入力で復帰
	+ <code>[GRPH]</code>	登録されたメディア (OS) の異なるディスク情報を表示 <code>[ESC]</code> で終了・ / で現在メディアの情報表示 <code>[↓] + [↓]</code> で登録された情報を順次表示 <code>[↑] - [SPACE]</code> で逆順表示・ <code>[ESC]</code> で終了
<code>[J]</code>		現在指定行のディレクトリより内部を表示 <Jump>
	+ <code>[SHIFT]</code>	現在指定行のディレクトリへカレントを変更 (「CHDIR」)
<code>[K]</code>		ファイル・サブ・ディレクトリの削除 <Kill> 指定行がファイルの場合、そのファイルだけを削除する指定 行がマークの付いたファイルの場合、現在行以降のマークの 付いたファイルだけを削除する。 ディレクトリの場合、その内部のすべてのファイルを削除



		[Y/N] (またはメニュー選択) で確認・[ESC] で中止
[L]		ディスク内容を16進ダンプ表示・編集格納 <Load> メディアの異なるディスクの内容も呼びだしできる 編集格納ができるのは2HDと2DDディスク (1) ドライブ名を入力 ([ESC] で終了) ドライブ名が現在表示ドライブと異なる場合、続いてメディアタイプを入力。 (2) トラックまたはセクター番号を入力 ([ESC] で終了) MS-DOSディスクはセクター番号の入力になる (3) [ESC] : ダンプ編集終了 (最下ライン左クリック) ↓ [T] : トラック番号の変更 [R] : セクター番号の変更 [+] : トラック番号の加算 [-] : トラック番号の減算 [P] : プリンタに出力 [S] : 現在トラックまたはセクターのはじめから [W] : 現在トラックまたはセクターのセーブ [X] : 変換ファイルによりデータ変換 ↓ : 1行下へ ↑ : 1行上へ → : 右へ ← : 左へ [ROLLUP] : 次のページへ (ダンプ面で左クリック) [ROLLDOWN] : 前のページへ (ダンプ面で右クリック) [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] : 現在位置を編集 [A] [B] [C] [D] [E] [F] : 現在位置を編集
[M]		MS-DOSのコマンドを実行 <MS-DOS> コマンド・ラインを入力する。[ESC] で中止 (「COMMAND.COM」がロードできる環境でないと実行できない)
	+ [SHIFT]	実行マクロ・コマンド列を0～9より選択 <Macro> [ESC] で中止
	+ [GRPH]	マクロ・コマンド文字列の変更・追加の後、コマンド実行 0～9より選択し、コマンドを連記した文字列を入力する 実行マクロ・コマンド文字列を0～9より選択する 小文字を入力する場合はあらかじめ[XFER]で入力モード

		を変更してから行う (マクロ・コマンドを参照) 初期設定として以下のマクロが登録されている (0) ファイル名でソートし、続いて拡張子でソートする (1) 2分割表示のウィンドウを上下分割表示に変更 (2) [G] コマンドの検索名をマーク付きファイルに設定 (3) [/?] 検索表示ファイル名をマーク付きに変更する
[N]		現在行のファイル・ディレクトリ名を変更する <Name> ファイル名を入力 (ファイル名の前にパスを指定した場合は 他のディレクトリにファイルを移す。パス名だけ入力しフ ァイル名を省略した場合は同じ名前移動する)
[O]		ファイルにファイル・ツリーをテキスト出力 <Out> ファイル名を入力。(中止は [J] のみ入力か [ESC])
[P]		ファイル・ツリーをプリンターに出力 <Print> [ESC] で中止
	+ [SHIFT]	キャラクター簡易罫線で表示 (漢字罫線が出力できない環境で指定)
	+ [GRPH]	ファイル群を書庫に冷凍 (バック) <Pack> コピー方法は [C] コマンドに同じ。コピー先の書庫名を指定 する。ディレクトリ行で指定した場合、新しい書庫をを作成 (書庫名を入力)。 コピー方式を「0～3」で設定 「0」: アーカイブのみで圧縮しない 「1」: アーカイブと連長圧縮 (あまり時間はかからない) 「2」: アーカイブとLZSS法で圧縮 (圧縮率が上がるがコピー に多少時間がかかる) 「3」: アーカイブと連長圧縮+LZSS法で圧縮 (さらに圧縮率 は上がるが、時間がかかる)
[Q]		プログラム終了 <Quit> [Y/N] またはメニュー選択で確認
	+ [SHIFT]	現在指定のドライブ・ディレクトリに移動して終了
[R]		現在指定行ファイルのチャイルド実行 <Run> コマンド・ラインの入力 (ない場合は [J] のみ入力) 実行出来ないファイルを選択した場合コマンド入力になる [ESC] で中止
	+ [SHIFT]	EXECを実行 (オーバーレイ)



[S]		ファイルのツリー表示順序を並び替える <Sort> ソートキー [N] ファイル名 [E] 拡張子 [D] 日時 [L] ファイル長 [C] キャンセル (初期検索時に戻す) (メニュー使用の場合、0～4 またはマウスで選択)
	+ [SHIFT]	ツリー上のファイル交換 同じディレクトリ内の相手ファイルを選択する
	+ [GRPH]	ファイル・ディレクトリのディスク格納連続性表示・格納現在指定行のファイル・ディレクトリのディスク格納連続性をマップ表示する。 ディレクトリを指定した場合、指定ディレクトリ内の表示ファイルツリー・イメージでディスクに書き込むかを選択(ディレクトリ内をソートなどで最適化)
[T]		アクティブ・ウィンドウのドライブを変更 <Transfer> メニューにより選択
	+ [SHIFT]	ドライブ+バス名の変更 (コマンドラインより入力)
	+ [GRPH]	メディア (OS) の異なるディスクを検索する メディアタイプを入力 ([ESC] で終了)
[U]		親ディレクトリに移動 (ポップ・アップ) <Up> 指定行が先頭でサブ・ディレクトリの場合、親ディレクトリより再検索する
	+ [GRPH]	書庫の中のファイル群を解凍 (アンパック) <UnPack>
[V]		ボリューム名表示スイッチ <Volume> (目障りなときは消去する)
	+ [SHIFT]	枠情報はみ出し部分の最下ライン表示スイッチ ウィンドウの枠が小さくて枠下線に表示できない場合、ウィンドウ外の最下ライン部に表示する
[W]		ファイルの横複数表示スイッチ <Wide>
[X]		メモリ・ダンプ (セグメント値を入力) [ESC] : 中止 [G] : アドレスの変更 [P] : プリント出力 [S] : 指定したアドレスのはじめから [ROLLUP] : 次のページへ (ダンプ面で左クリック) [ROLLODOWN] : 前のページへ (ダンプ面で右クリック) その他のキーで1ページ(256バイト)進む



	+ [SHIFT]	現在システムのMCB・PSPセグメントよりダンプ
	+ [GRPH]	直接プリンタへ出力
[Y]		総クラスター数を指定したバイト数で計算。 現在表示ドライブの使用クラスター数を仮想計算することによりディスクからハードディスクへコピーする場合どれだけの空容量が必要かわかる
[Z]		直前に実行したコマンドを再実行
[@]		現在指定行ファイルのマーク・スイッチ（設定←→解除） 設定後1行前進（ファイルのコピーや削除で活用する） マウスを左クリックしながら右クリックするとマーク設定
	+ [SHIFT]	設定後1行後退
	+ [GRPH]	全マークを解除（[Y/N] またはメニュー選択で確認）
[b] ([↑])		1行後退（上方）
	+ [SHIFT]	[SHIFT] 押下で3行飛び越しの高速移動
[c] ([TAB])		マウスやカーソル移動キーの機能モードを順次変更する 現在の機能状態は左上隅に表示される ポップメニューの1～4でも選択できる マウスの左上隅文字上クリックで順次変更できる 〔行移動〕 マウスは自由に移動でき、各種のマウス操作が可。 カーソル移動キーは行移動の機能を持つ 〔枠移動〕 ウィンドウを移動する 〔左上隅〕 ウィンドウの左上隅を基点として、ウィンドウを拡大・縮小する 〔右下隅〕 ウィンドウの右下隅を基点として、ウィンドウを拡大・縮小する
	[d] (RD)	半ページ巻下ろし（後退）(RD=[ROLLDOWN])
	[DEL]	[ROLLDOWN] キーの位置は使いにくいので [DEL] キーでも操作できるようにしてある
	+ [SHIFT]	[SHIFT] 押下でテキスト画面転送による高速スクロール
	[e] ([SHIFT] + [HOMECLR])	ファイル全体の末尾に移動（[.] コマンドに同じ）
[f] ([↓])		1行前進（下方）
	+ [SHIFT]	[SHIFT] 押下で3行飛び越しの高速移動

[h] ([HELP])	ヘルプ画面表示 表示画面の操作は [?] コマンドと同じ
[j] ([HOMECLR])	ファイル全体の先頭へ移動
[l] ([←])([BS])	左移動 1行に複数のファイルを表示した場合の横移動
+ [SHIFT]	罫線段落とし幅を縮小
+ [CTRL]	サブ・ディレクトリ表示の深さを縮小する
[m] ([f+10])	ポップ・アップ・メニュー
[q] ([ESC])	中止 (メイン・ルーチンでは [Q] コマンドと同じで終了)
[r] ([→])	右移動 1行に複数のファイルを表示した場合の横移動
+ [SHIFT]	罫線段落とし幅を拡大
+ [CTRL]	サブ・ディレクトリ表示の深さを拡張 (初期設定値以内)
[u] (RU) ([INS])	半ページ巻上げ (前進) (RU = [ROLLUP]) [ROLLUP] キーの位置は使いにくいので [INS] キーでも操作できるようにしてある。ただし、[INS] はオート・リピート機能がないので押し放しをくりかえす。
+ [SHIFT]	[SHIFT] 押下でテキスト画面転送による高速スクロール
[x] ([XFER])	文字列入力モードを切り替える [E] [G] [/] コマンドにおける文字列入力において、初期設定は大文字入力 (マウス対応) モードになっている。 (このモードでは [?] [<] [>] は [SHIFT] キーを押さずに入力するようになっている) [XFER] キーを押すと、カナ・小文字・漢字入力モード (一般的な文字列入力状態、マウス対応でない) になる。このとき、XDIRの環境として2ページ目を使用している場合、入力中は1ページに戻る。(FEPが2ページ目に対応してない)
[>]	マルチ表示のアクティブ・ウィンドウを切り替える
[<]	[>] コマンドと逆ローテーションに切り替える
[SPACE]	現在の画面を表示し直す (ディスク交換したときや、画面が乱れたときに利用)
[:] ([↓])([↑])	確定
[?]	指定行のファイル内容をテキスト表示 指定した桁数で1行以内に表示できないときは、次の行に緑色で表示される (行番号は同じ) <↓マウス左> アスキーファイル以外は変換を必要とするので変換実行ファイルを選択する (メニュー形式で画面に表示される) [ESC] : 終了 [終了] [↓] : 1ページ前進 [頁進]

[RU]・[INS]	: 半ページ前進	〔半進〕 枠内左 クリック
[↓]	: 1 行前進	〔行進〕
[SPACE]	: 1 ページ後退	〔頁退〕
[RD]・[DEL]	: 半ページ後退	〔半退〕 枠内右 クリック
[↑]	: 1 行後退	〔行退〕
[HOMECLR]	: テキストの最初へ	〔先頭〕
[.]	: テキストの最終行へ	〔末尾〕
[→]	: テキスト右部を表示 (左へスクロール)	
[←]	: テキスト左部を表示 (右へスクロール)	
[C]	: 表示色の変更	〔色〕 行番号・テキスト部・テキスト次行は み出し部の色・ファイル比較の変更部 を 1～31 ([/C] コマンド参照) の範囲 の値で設定
[D]	: 表示画面の最下ラインを下げる	
[E]	: テキストの編集モードへ	
	編集モードでの機能は [E] コマンドを 参照	
[F]	: ファイルの内容比較	
	開かれたウィンドウで相手ファイルを 指定文字列に違いがあった場合指定し た色でその部分を表示 (ファイル内容 が連続 5 行等しいとき一致と判断す る)	
	ファイル表示に戻ったときに指定され た色で表示されているので確認できる	
	[ESC] で中止/他の任意のキー入力で 継続	
[G]	: 指定した行へ移動	〔行飛〕
[M]	: マルチテキスト表示中のメモリーマッ プ	
[P]	: プリンタに出力	〔印刷〕
	・タブ値を設定 ([J] だけは 8 が設定)	
	タブを指定した数の半角スペースに 変換	

	2桁入力方式で1桁の場合は確定に [↓] が必要。2桁の場合は [↓] は不要 ・行番号の桁数を入力（不要な場合は0） ・印字幅を3桁入力方式で設定 [S] : 表示スタイルの変更 [書式] [U] : 表示画面の最下ラインを上げる [SHIFT] 押下で最上位ラインを上げる [V] : ラインの行数を変更 [行数] 画面表示行数を20行、25行に変更するスイッチ 全体的に漢字が多くて読みづらいときなどに20行表示にする。 再度設定すると25行表示にもどる。 このコマンドは全体表示のときのみ有効 [Z] : 表示画面の変更 [全体] ウィンドウ内表示 ↔ 全体表示 [>] : 表示ウィンドウの変更 [枠内左クリック] [<] : 表示ウィンドウの変更 [逆順] [HELP] : ヘルプ画面表示 [HELP文字クリック] [ESC] で中止 [中止] コマンド文字入力でコマンド実行 [コマンド文字部を左クリック] [SPACE] ・ [↓] ・ [↑] ・ [↓] で頁の切り替え [スペース部を左クリック] メモリ不足で長いファイルの逆スクロールができなくなる場合あり [GRPH] 押下で起動すると直接プリンタへ出力
+ [SHIFT]	指定行のファイル内容を16進ダンプ表示 [ESC] : 終了 [G] : ファイルポインタの移動 [S] : はじめから [P] : プリンタに出力 [W] : 他メディアファイルのMS-DOSセーブその他のキーで1ページ（256バイト）前進

[¥]	[J] (ジャンプ) コマンドで設定したのを解除
[+]	ウィンドウを新しくオープンする (マルチドライブ表示) ドライブ名パス名を入力する ([J] のみ入力した場合、カレント・ドライブ+ディレクトリに設定される) メモリの許す限り最大10個までオープンできる
+ [SHIFT]	ウィンドウの再配置・再構成をしない
[-]	アクティブ・ウィンドウをクローズする ([Y/N] またはメニュー選択で確認)
+ [SHIFT]	ウィンドウの再配置・再構成をしない
[/]	起動時のスイッチ内容を変更 (コマンドラインを入力)
[*]	ファイル表示をワイルド (*.*) にもどす
+ [SHIFT]	検索表示ファイル名を変更 ([/?] コマンドに同じ)
[.]	ファイル全体の末尾に移動 ([e] コマンドに同じ)
1 [f.1] 2 [f.2] 3 [f.3] 4 [f.4] 5 [f.5] 6 [f.6]	ダウン・メニュー1 [OS] 2 [ウィンドウ] 3 [表示環境] 4 [カーソル] 5 [ファイル] 6 [補助機能]
7 [f.7] 8 [f.8] 9 [f.9]	[>]コマンドに同じ (Ver.1.5、2.0 との互換性で残してある) [+]コマンドに同じ [B]コマンドに同じ

《注》 () 内は割り当てキー (英大文字・数字で表されたコマンドは同形なので省略)

[A] ~ [Z]	指定ドライブの変更 ([CTRL] 押下で英文字をキーイン)
+ [CTRL]	[CAPS] がロック (ルートより検索) アンロック (カレントより検索) [SHIFT] キー押下で [CAPS] ロックと同じ [カナ] キーロックの場合は検索条件を初期化する

メニューによるコマンド選択

▶ポップ・アップ・メニュー (PM)

マウス右クリック (押し続ける必要はない) または、[m] コマンド (**f.10**) で選択する。

●メニューの選択コマンドキー

[Z] [0 =マウス] [1 =枠移動] [2 =左上隅] [3 =右下隅] [;] [q]

▶ダウン・メニュー ([M1] ~ [M6])

メニューバーの上でマウス左クリック (押し続ける必要はない) または、[1] ~ [6] コマンド (**f.1** ~ **f.6**) で選択する。

●各メニューの選択コマンドキー

M1	<M> <H> <H>+SFT <q> <Q>+SFT
M2	<T> <J>+SFT [>] <+> <+>+SFT <-> <->+SFT <T>+GRP
M3	</> <F> <W> <D> <D>+SFT <S> <A> <* >+SFT <V> <r>+SFT <l>+SFT <r>+ CTRL <l>+ CTRL < >
M4	<j> <e> <U> <J> <¥> <G> <G>+SFT <G>+CAP <G>+SFT+CAP
M5	<?> <?>+SFT <C> <C>+SFT <K> <R> <N> <E> <@> <@>+GRP <A>+SFT <S>+SFT
M6	<P> <O> <I> <I>+GRP <I>+SFT <X> <Y> <M> <M>+SFT <M>+GRP <D>+GRP <C>+GRP <L>

ビーブ音の音程音長の指定

n1 [機能の区別コード]

- 0: メッセージ (デフォルト) n2 = 300, n3 = 20
 1: 警告 n2 = 999, n3 = 10
 2: 機能選択応答 n2 = 200, n3 = 20
 3: マクロ実行 n2 = 30, n3 = 10

n2 [音の高さ] 0 (無音) 1 (高い) ~ 数字大 (低い)

n3 [音の長さ] 0 (無音) 1 (短い) ~ 数字大 (長い)

《注》 (音の長さは (n2×n3) できる)

画面表示色の設定

●/e(小文字) はプリンク表示 (0~9ABCDEFに16を加えた値)

[↓初期値]

n1	[ウィンドウのバック・グラウンド全体]	(F) 白色反転
n2	[マウス・カーソル (現在バック画面の反転)]	(6) 黄色
n3	[XDIRタイトル表示バー全体]	(D) 水色反転
n4	[XDIRバーの [HELP] 表示部分]	(C) 緑反転
n5	[XDIRバーの時間表示部分]	(D) 水色反転
n6	[ポップ・ダウン・メニューの全体]	(D) 水色反転
n7	[ポップ・ダウン・メニューのタイトル部分]	(C) 緑反転
n8	[ポップ・ダウン・メニューの指定部分]	(E) 黄色反転
n9	[メッセージ・ライン]	(1D) 黄色反転点滅
n10	[ファイル検索中外枠]	(5) 黄色
n11	[ファイル検索中XDIRの文字]	(5) 水色
n12	[DISKエラー・メッセージ]	(C) 緑反転
n13	[選択メッセージ (ソート順、Y/N)]	(D) 水色反転
n14	[マウス・キーボード]	(F) 白色反転
n15	[文字列入力バーコマンド部]	(D) 水色反転
n16	[文字列入力バー入力部]	(E) 黄色反転
n17	[XDIR終了メッセージ]	(D) 水色反転
n18	[マクロ実行中のコマンド表示]	(E) 黄色反転
n19	[ファイルテキスト表示の行番号]	(5) 水色
n20	[ファイル表示のテキスト部]	(7) 水色
n21	[ファイル表示の次行はみ出しテキスト部]	(4) 緑色
n22	[ファイル内容比較の変更部]	(6) 黄色
n23	[ファイル表示のタブ値]	
n24	[ファイル表示の行番号表示有無]	

●「.」指定でパス (以前の値は保存される)

●/E: <番号>、<色コード> [:<番号>、<色コード>] でも設定できる

アクティブ・ウィンドウ内の各パラメーター表示色の設定

- 色コード0～7を指定
- 8を加えた値 (89ABCDEF) を指定した場合反転表示
- n1からの色指定はいくつでもよい
- /c(小文字) はブリンク表示 (0～9ABCDEFに16を加えた値)

〔↓初期値〕

n1	〔現在指定ファイル名〕	(E)	黄色反転
n2	〔罫線〕	(7)	白
n3	〔サブ・ディレクトリ名〕	(6)	黄色
n4	〔ファイル名〕	(7)	白
n5	〔ファイル・サイズ〕	(7)	白
n6	〔日付〕	(7)	白
n7	〔時間〕/FDで指定した場合のみ有効	(7)	白
n8	待機 (スリープ) 画面の表示色を設定	(5)	水色
n9	〔外枠〕	(4)	緑
n10	〔枠内〕	(7)	白
n11	〔枠内ファイルなしメッセージ〕	(4)	緑
n12	〔マーク設定ファイル・ディレクトリ名〕	(4)	緑反転

- 「.」 指定でパス (以前の値は保存される)
- /C: <番号>, <色コード> [: <番号>, <色コード>] でも設定できる
- /Dn サブ・ディレクトリ表示の深さを指定する (n = 0～15) (Deep)
デフォルトの値は15 (最大の深さに設定)



X
D
I
R

ファイルコマンド

- /F : ファイル名を表示 (1行に1個ずつ)
- /FC : ファイル名を表示しない
- /FD : ファイルのサイズ・日付・時刻を表示 (スイッチ形式)
- /FW : ファイルを横に複数個表示
- /FS : システム・不可視ファイルを表示 (スイッチ形式)
- /FA : ファイルのアトリビュート属性を表示

グラフィック画面表示

- /Gn : グラフィック画面の表示有無を設定
 - n = 0 (表示しない。デフォルト)
 - n = 1 (表示する。アプリケーション実行において必要な場合設定)

罫線幅の指定

- /Hn : 段落としての罫線幅を指定 (n = 1~40)
デフォルト値は 8 (マルチウィンドウ表示の場合初期値は 1)

コマンドバーの設定

- /bC 文字列: [H] コマンドで使用するコマンド・バーの内容を設定
- /bM 文字列: [E] コマンドで使用するマクロ・バーの内容を設定
書式 (区切りに '\$' を用いて、コマンド文字列を並べる)
(例) /bC\$XDIR *.EXE\$FORMAT D: /M /S

表示ウィンドウ幅の設定

- (n = 17~76) デフォルトは 76

ウィンドウ・ズーム・ピッチの設定

- (n = 1~40) デフォルト 1
- ファイルのコピーをひんばんに行う場合、値を大きく (40程度) しておくとウィンドウの切り替えが高速になる

表示テキスト画面のページを指定

n=1 (1 ページを使用。デフォルト)

n=2 (2 ページを使用。現在表示画面を壊したくない場合設定する)

アスキーファイル

/Iファイル名

マクロ・コマンドの文字列をアスキー・ファイルにしたものを取り込み、順次実行する。

/Lファイル名

(Load)

アスキー・ファイルを取り込むことにより、**XDIR**の環境を設定(アスキー・ファイルの書式) 1行単位にコマンド・ラインを連記

/E4.....E (背景色の変更)

/Z8 (ウィンドウ・ズーム・ピッチの変更)

/P2 (表示ページを2ページに変更)

ソート・検索の設定

/SN ファイルの表示順序を [ファイル名] でソートして表示

/SE [拡張子を「主」、ファイル名を「従」]

/SD [作成日時]

/SL [ファイル長]

/SC [キャンセル] 検索時の並びに戻す

ソートキーは2つまで設定できる

例 [/SEN] ファイル名でソート(従)、そのあと拡張子でソート(主)

/N文字列 ドライブ検索中の拡大タイトル文字を設定

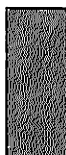
デフォルトは全角文字「**XDIR**」。文字数は全角4文字(半角8)まで

全角2文字(半角4文字)の場合、全フォント表示

全角4文字(半角8文字)の場合、横縮小フォント表示

/?ファイル名 (ワイルド・カードを含む)

指定したファイル名だけを表示(検索表示)



マウス設定

/Mn [,Gn,Pn,Cgrb,F<ファイル名>,S<全角文字>,I<ファイル名>]

マウス設定および移動ドット比を設定 (n=0~32767) 値が小さいほど感度がよく、大きくなると鈍くなる

デフォルトは5 (狭いディスクで操作できるように感度よくしてある) 値が0のときはマウス使用を停止 (マウスドライバーが設定されていない場合や、独自のドライバーが設定されているため、正常に動作しない場合は /M0 でマウス使用を禁止する)

▶追加機能

S<文字>

マウスカーソルの全角文字 (半角2文字) 変更。初期値は ★

K<16進4桁JISコード>

マウスカーソルを外字で設定。フォントは「G」で設定

G<ファイル名>

マウスカーソルの外字フォントをファイルよりユーザー定義する
ファイル書式は 2進数 16桁 16行のテキストファイル

Mn

M0 (キャラクターマウスカーソルをテキスト画面に表示)

M1 (デフォルトのマウスカーソルをグラフィック画面に表示)

M2 (ユーザー定義のマウスカーソルをグラフィック画面に表示)

Pn

0~3でグラフィックマウスの表示プレーンを指定。初期値は2

Cgrb

マウスのパレット色指定。g(緑)r(赤)b(青)の明度を0~Fで設定

Pn設定後のCgrbが有効

F<ファイル名>

マウスのグラフィックフォントをファイルより定義

ファイル書式 (34行のテキストファイル)

1 行目以降 マウスのフォント 2 進数表現 (16桁)
 ~ 1111000011110000 (1 の部分が表示される)
 32行目まで 1111111111111111
 33行目 マウスの基準 (横) 0~15
 34行目 マウスの基準 (縦) 0~31
 例 /MS○ /MK7621,GCG_FONT /MM1 /MM2,P1,C8AF,FMUSFONT

/Tn

マウス移動時のウェイトを設定 (加速性をだすため)

(n = 0~1000) デフォルトは 30

処理速度の遅い機種では動きがぎこちなくなる場合があるので 0 に設定

X
D
I
R

▶メニューでのマウス使用

- ◇ マウスで移動しクリックで確定
- ◇   で移動し 確定 ( または  キー)
- ◇ 数字キーまたは英文字キーで直接確定
- ◇ マーク外で確定した場合コマンドはキャンセルされる

▶メニュー選択以外でのマウス使用

ヘルプ画面表示	右上隅の [HELP] 文字上を左クリック
ファイル指定	アクティブ・ウィンドウ内のファイル上を左クリック
半ページ巻上げ	アクティブ・ウィンドウの枠下を左クリック
半ページ巻下し	アクティブ・ウィンドウの枠上を左クリック
ウィンドウ変更	他のスリープ・ウィンドウ内を左クリック
ウィンドウ拡大縮 移動	[c] コマンドで変更、またはポップメニューの234選択により、マウス操作でウィンドウの拡大・縮小・移動を行う
数字文字列入力	画面上の表示文字 (半角文字またはマウス用に表示されたキーボード上全角文字) 上を左クリックするとその文字が入力される (入力される文字は半角数字英大文字) [取り消し] は [] 上を左クリック [確定] は [] 上を左クリックまたは右クリック

XDIRのパス順位

(1)	カレントディレクトリ
(2)	環境変数「XDIRまたはxdir」で指定したディレクトリ 環境変数が設定されていないときは[XDIR]を起動したディレクトリ

《 活用例 》

1 すばやく移動	
(1)	[F] コマンドを実行し、ディレクトリ名のみを表示
(2)	目的のディレクトリに移動 ([SHIFT] 押下で高速スクロール)
(3)	[F] コマンドを実行し、ファイル名を再表示
2 階層的ディレクトリを含むファイルのコピー	
(1)	アクティブ・ウィンドウ<1>で目的のファイルまたはディレクトリに移動し [C] コマンドを実行する。ファイルを指定した場合は1個コピーする ファイルを指定し、以降のファイル・ディレクトリをコピーしたい場合は[SHIFT] キー押下で [C] コマンドを実行する 任意のファイルだけをコピーしたい場合は、あらかじめ「@」コマンドでマークを付けておく
(2)	ウィンドウ<2>でファイルまたはディレクトリを選択し確定(;)する コピーを始める前にマルチ・ウィンドウ表示にしておいた方が操作しやすい コピーできない場合エラー・メッセージが表示される ・ディスクの空き容量が0 (コピー先の空容量は随時表示される) ・ディレクトリがすでに存在する ・ファイルの呼び出しが禁止されている [ESC] キーで中止。他のキーで続行
3 階層的ディレクトリを含むファイルの削除	
(1)	目的のファイル名またはディレクトリ名に移動し [K] コマンドを実行する
(2)	確認して、OKなら [Y] を押す。ディレクトリを指定した場合は、中のファイル・ディレクトリを全て削除するので要注意 [ESC] キーで中断 削除できない場合エラー・メッセージが表示される ・ファイルがリード・オンリ・ファイルである ・ディレクトリが空でない (ファイル名が画面に表示されていない場合あり) ・[ESC] キーで中止/他のキーで続行

- 《注》 MS-DOS以外のメディアを検索しファイル変換をする場合、変換プログラムの呼び出しをするので起動ディスクを抜かないようにしてしてください。
- 《注》 異常終了により画面がみだれたままの場合XDIRを再起動して、正しく終了させてください。



X
D
I
R

オプション

/O文字列	メディアのタイプを文字列で指定することで最優先的に検索を始める。指定しない場合は登録タイプ順に検索する
/O-	メディアをMS-DOSに限定することで無駄な検索をカットする
/O+	メディアタイプをMS-DOSに限定しない (/O-の解除) (デフォルトは MS-DOSタイプより登録メディアの全てを検索)
/O	他のメディア (OS) 検索のためのディスク情報を設定

文字列 「/O」で設定を開始・「/O」で設定を終了する

(1)	メディア・ボリューム選択名	PC98-DSK (例) PC-9801
(2)	バイナリBAS変換プログラム	98_BAS.EXE
(3)	中間コード変換テーブル	98BAS.DAT
(4)	変換ワイルドファイル名	98 * . *
(5)	ツリー作成・変換プログラム	infile (内部ルーチンで処理可)
(6)	メディア・タイプ識別文字列	MS,98,98D,S1,L3,X1
(7)	ユニット番号	90H(2HD) 10H(2DD)
(8)	ヘッド数	2 (両面) 1 (片面)
(9)	トラック総数	154 , 160 , 80
(10)	TPI (Track・Par・Inch)	1 (ダブルトラック) 0 (シングル)
(11)	セクター・サイズ	3 (1024) 2 (512) 1 (256) 0 (128)
(12)	トラック・セクター・サイズ	8 (MS-DOS) 26 (2HD) 16 (2DD,2D)
(13)	グループ・セクター数	8 (MS-DOS) 26 (2HD) 8 (2DD,2D)
(14)	ディレクトリ・トラック	70
(15)	ディレクトリ・セクター	1
(16)	ディレクトリ・セクター数	10
(17)	FATトラック	70
(18)	FATセクター	24
(19)	FATセクター数	3
(20)	メディア・チェック位置	255 (使用しない場合)
(21)	メディア・チェック・データ	D (dir(18)) = D (19)
(22)	ディレクトリ・サイズ	32 (MS-DOS,S1) 16 (PC98)
(23)	ファイル名位置	0 1 (X1-Turbo)
(24)	ファイル長	8 (MS-DOS,S1) 6 (PC98)

(25)	ファイル・サイズ格納位置	255(なし)
(26)	グループ位置プラス	0, 2(S1)
(27)	グループ・ギャップ・トラック	0, 1(S1)
(28)	グループ・ギャップ・プラス	0, 1(S1)
(29)	グループ値格納FAT開始	0, 1(S1)
(30)	使用グループ値格納位置	10
(31)	グループ番号上限	C0H
(32)	グループ使用可能数	160
(33)	FATビット・サイズ	8
(34)	Basicチェック位置	dir(D(34)) and D(35) = D(36)
(35)	ANDデータ	
(36)	比較データ	
(37)	バイナリ・チェック位置	dir(D(37)) and D(38) = D(39)
(38)	ANDデータ	
(39)	比較データ	
(40)	アスキー・チェック位置	dir(D(40)) and D(41) = D(42)
(41)	ANDデータ	
(42)	比較データ	
(43)	サブディレクトリチェック位置	dir(D(43)) and D(44) = D(45)
(44)	ANDデータ	
(45)	比較データ	
(46)	Basicデータ 開始位置	0, 3(S1)
(47)	フラッグ1ビット目→ワード反転 2ビット目→漢字使用不可	(0(80系) 1(68系)) (S1, L3は1)

《注》 各メディアごとに (1～47) のデータ設定のくりかえし

/0 (設定終了行)

付録D

添付ディスク内のXDIRファイル

▶ XDIR_423.EXE

DEMO.DAT	: XDIRの機能評価用マクロ実行バッチファイルのサンプル
XDIR.EXE	: XDIR本体
CG_FONT	: フォントデータ
MACRO.DAT	: DEMO.BATで使用するマクロファイル
MUSFONT1	: マウスカーソルのフォントデータ
README.DOC	: XDIRシステムの解説とファイル一覧
XDIR.ENV	: XDIRが起動されたときに読み込む環境ファイル
XDIR.HLP	: XDIRのヘルプファイル
XDIR2.HLP	: XDIRの簡易ヘルプファイル

▶ XDIR_DOS.EXE

XDIR.EXE	: XDIR本体
README.DOC	: XDIRシステムの解説とファイル一覧
MUSFONT	: マウスカーソルのフォントデータ
XDIR.ENV	: XDIRが起動されたときに読み込む環境ファイル
XDIR.HLP	: XDIRのヘルプファイル
XDIR2.HLP	: XDIRの簡易ヘルプファイル
XDIR423M.\$AS	: XDIR (Ver.4.23) のファイル書庫 (GRPH + U で展開) TURBO-C (Ver.2.0) で作成

▶ XDIR_MIN.EXE

XDIR.EXE	: XDIR本体
README.DOC	: XDIRシステムの解説とファイル一覧
XDIR.HLP	: XDIRの簡易ヘルプファイル
XDIR423C.\$AS	: XDIR (Ver.4.23) のファイル書庫 (GRPH + U で展開) TURBO-C (Ver.2.0) で作成

●XDIRに使用したハードとソフト

パソコン本体：エプソン／PC-386VR

増設RAM　　：2MB

ソフト　　　：XDIR Ver.4.23

OS　　　　　：MS-DOS Ver.3.3C

《注》　　「XDIR.HLP」は大きなファイルです。ですからXDIRに使い馴れてきたら「XDIR2.HLP」と入れ替えた方がいいでしょう。



X
D
I
R

おぼえておこう！

XDIRではマウスを使うこともできますが、本書ではカーソルキーによる操作での解説を行っています。

XDIRでマウスを使用するためには、マウス用デバイスドライバ(「MOUSE.SYS」)の組み込みが必要です。

XDIRの印字機能を使用するためには、印刷用デバイスドライバ(「PRINT.SYS」)の組み込みが必要です。

XDIR作者の言葉



MS-DOSの「DIR」コマンドに不満を感じている人も多いと思いますが、その機能拡張版「eXpandDIR」を作成することになりました。作成を始めたのは1988年の9月の頃で、きっかけはパソコン仲間がディスクで提供されるX68000の雑誌の整理のためにと、「INDEX」というディスク管理ソフトの製作を始めたことです。私も20MBのハードディスクがパンクして、80MBが届くまでにPC-9800用のちょっとしたディスク環境整備用ソフトを作ってみようと思ったのですが、「軽さ」を求める気持ちが凝り性の性格に負け、ずるずると3年近くかかってしまいました。

ソフト名を「EDIR」ではなく「XDIR」としたのは、8台めのパソコンとしてシャープのX68000を手にした時期であり、友人もまたX68000党と、まわりが「X」一色の環境だったからです。「XDIR」はタイピングリズムがちょっと悪いと思うのですが、結局「X」のイニシャルにこだわってしまいました。

「XDIR」の作成を始める前は「Moving」が開発のメインでした。シミュレーションのためのアニメーションツールとして、79年頃から作成を始めたもので、Lkit-16・L3・SI・PC-9800、X68000、FMRといろいろな機種バージョンがあります。「永遠なるテーマ」としている開発の本命なのですが、最近は「XDIR」のほうが開発のメインになってしまい、いくぶん影が薄くなった存在です。「Moving」はアセンブラからCへ、そして、どのC処理系でも動くように作り直し、どうしてもマシンに依存する部分はヘッダーファイルなどで吸収するように工夫しています。そして現在、拡張高き統合環境版を作成しているところです。

「XDIR」の特徴は、コマンドのワンタッチ操作でキーのひとつひとつに機能を持たせていることです。「CTRL」+「ドライブ名英文字」のキー操作でウィンドウが閉じ、新たに開いてディスク中の階層的な世界を美しく表示してくれるのが「XDIR」の魅力といえます。メニューやマウスでもコマンド操作ができますが、使い馴れるとキー操作のほうが操作性もよく、はるかにスピーディーです。ただ、多機能なために「SHIFT」や「CTRL」、**GRPH**キーを併用しなければならないことがあり、頭が混乱することもあります。よく使う機能はなるべく1タッチ・1ヒットで済むように設計したつもりですが、泥縄式の機能追加で統合性がやや乱れたかも知れません。

コピーなどはウィンドウ間で行うので、ウィンドウ操作に馴れることも「XDIR」を使いこなすことの大事な要素です。ウィンドウ機能もVer.1のモノウィンドウから、Ver.2のデュアルウィンドウ、そして、Ver.3のマルチウィンドウとレベルアップしています。Ver.4はマルチメディア機能追加だけでウィンドウ機能のアップはありません。ウィンドウは最大10画面までオープンできますが、PC-9800の画面ではせいぜい2、3個が機能的限界だと思います。

多機能、そして200KBと、名実ともに重いソフトとなった「XDIR」は、遊び心いっぱい作ったソフトです。とくに、ウィンドウのオープン・切り替え・拡大・縮小・移動などに思い入れをもって作っています。多分に「Moving」を意識して作ったわけですが、そのぶん全体的に重くなったのも確かなようです。重いからといってポリシ

ーは捨てたくありませんし、第一ポリシーのないものには魅力は感じられません。ポリシーのない機種・ソフトが流行するという現実があることもたしかですが、マニアの気持ちは別だと考えます。

重いがゆえにフロッピーディスク党の人たちにはなかなか使ってもらえないようですので、MS-DOS版 (180KB) とそのコンパクト版 (150KB) の2つを作成し提供することにしました。コンパクト版については、マルチウィンドウとツリー表示だけを残して、ほとんどの機能をカットすると80KBほどになりますので、これに必要な機能だけを追加すれば、オリジナルのコンパクトシステムが作れます。今流行の「ダイエット」をしてやれば、少々大きなシステムでもディスク起動の点で苦にならないと思います。

マルチメディア機能は、98マシンで他メーカーの機種のディスクをパソコン本体がなくても覗くことができデータを引っ張り出すことができるものですが、もともとは、自分の持っているすべての機種のディスクが読めるようにという発想で付けたもので、最近のように、取り扱うディスクのほとんどがMS-DOSだと、この機能の出番はほとんどないと思われます。メディアチェックのためにディスク検索も頻繁に行われますし、プログラムサイズも大きくなるので、MS-DOS版のほうが多くの利用者にとって、使うメリットが大きいと思います。

「XDIR」も、この2年半の間ただガムシヤラにバージョンアップを続け、機能拡張のためだけに気持ちが向かい、Cソースなどをあまり見直すこともなかったような気がします。人目に触れるようになった今、改めてプログラムを眺めてみると、醜い部分や冗長な箇所が目立ちます。とくに、長い間アセンブラでマシン依存のプログラムを書くことに慣れていたせいか、プログラム全体になんとも泥臭さが感じられます。TURBO-CというC処理系がそれを助長しているのかもしれませんが、X68000やFMRに移植しているときにそのことを強く感じます。

「XDIR」のCソースは未熟で人前に出せるものではないのですが、みなさんの参考に、また良きアドバイスなどいただけるのではないかと思います公開しています。「1人はみんなのために」「みんなは1人のために」がネットのポリシーだと考えます。「XDIR」もまだまだ不満がいっぱいで、プログラムの見直しやバグフィックスなど、今後のバージョンアップの中で解決していかなくてはなりません。

1991年6月

武石 秀男